

ABCシステム

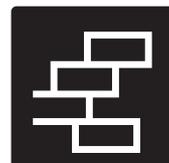
施工マニュアル

www.abc.com.au

AUSTRALIAN BRICK CLADDING



AUSTRALIAN
BRICK
CLADDING



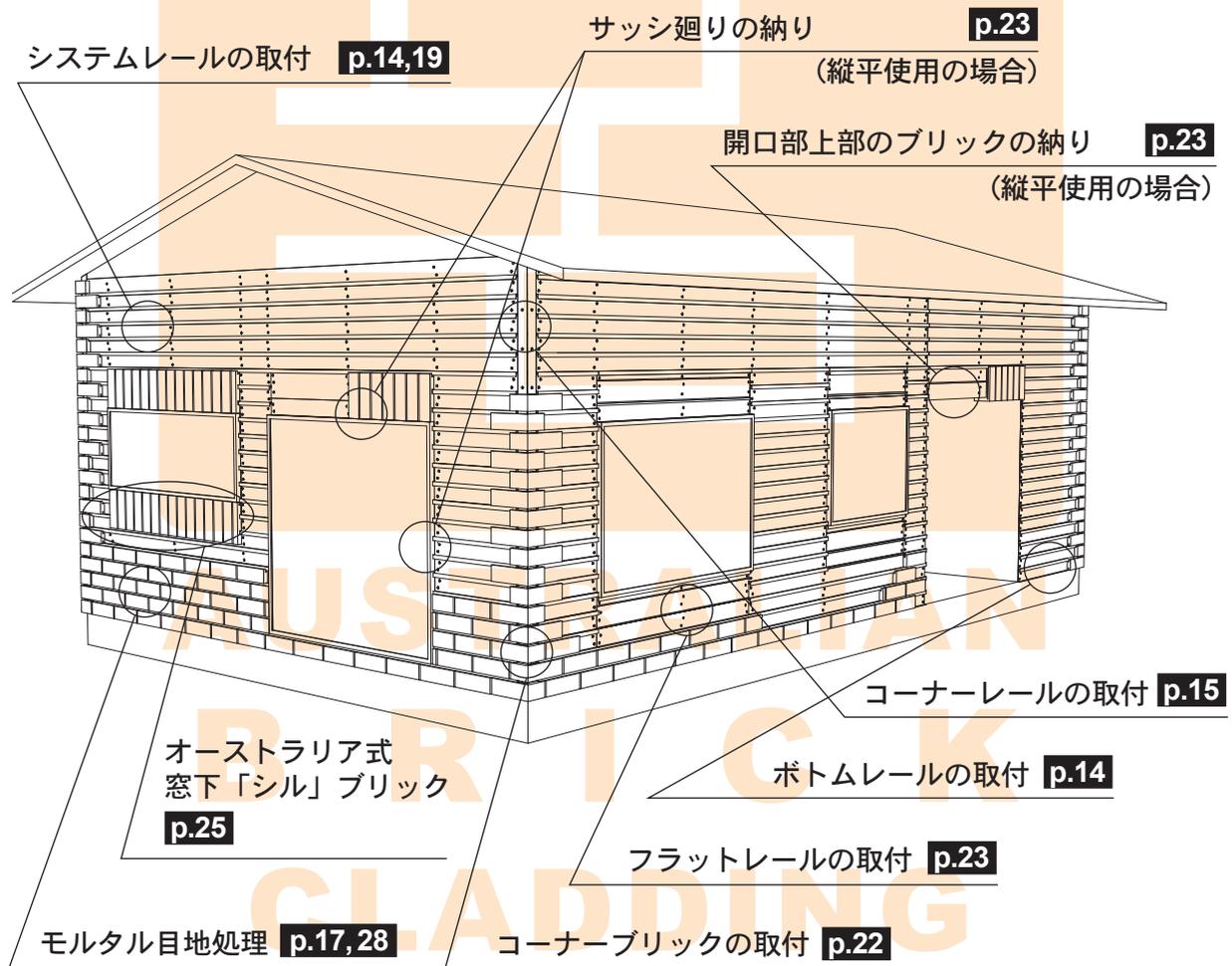
目次

1	ABC システムの概要と特徴	2
2	材料の仕様 (ブリック、システムレール)	4
3	施工順序	8
	A) 施工イメージ	8
	B) 防水シート貼り	11
	C) 下地	12
	D) 通気胴縁取付 (通気工法の場合)	13
	E) ABC システムレール取付	14
	F) ABC ブリック取付	16
	G) 目地モルタルつめ	17
4	施工詳細	
	H) 施工に欠かすことのできない工具類	18
	I) ABC システムレール取付	19
	J) ABC ブリック取付	20
	K) オーストラリア式 ABC「シル」ブリック	25
	L) 目地モルタルつめ	28
5	注意事項	29
6	Q & A	30
7	用語集 (日英レンガ施工用語)	33
8	付録	34

1 ABCシステムの概要と特徴

この施工マニュアルは木製枠組み壁工法に基づいていますが、本書にある「ABCシステム」施工要領は異なる工法にも広く適用、応用できるものです。ご不明な点は、「ABCシステム」販売元へお問い合わせください。

1 全体図及説明



www.ale.com.au

② 特徴

- オーストラリア製レンガを25mm厚に切断したブリックをシステムレールにはめ込み、目地モルタルをつめる、乾式工法のレンガ貼りシステムです。
- オーストラリア製レンガは豊かな色調と広範な色合い、多くの種類があり、必ずご希望のイメージの物が用意できます。
- 自然の土から焼いて作られるレンガは一枚毎に少しずつ色合いが異なり、それが良い雰囲気を出しています。
- 自然の作り出した色は、いつまでも飽きがなく、深みのある色合いが、建物の価値を高める為に大切な役割を果たすことでしょう。
- システムレールをすき間なく下地に釘打ちすることにより強固な下地となり、同時に雨水侵入に対しても大きな抵抗力を持ちます。
- 割付けに従ってレールを水平に打ち、ブリックを一枚ずつはめ込んでいく作業は熟練工を必要としません。
- 外装、内装を問いません。一般住宅、店舗、商業ビル等広い用途があります。

www.ale.com.au

2 材料の仕様

① ABCブリックの仕様

○ブリック

・長さ230mm、高さ76mmの化粧材で、厚さが25mm。

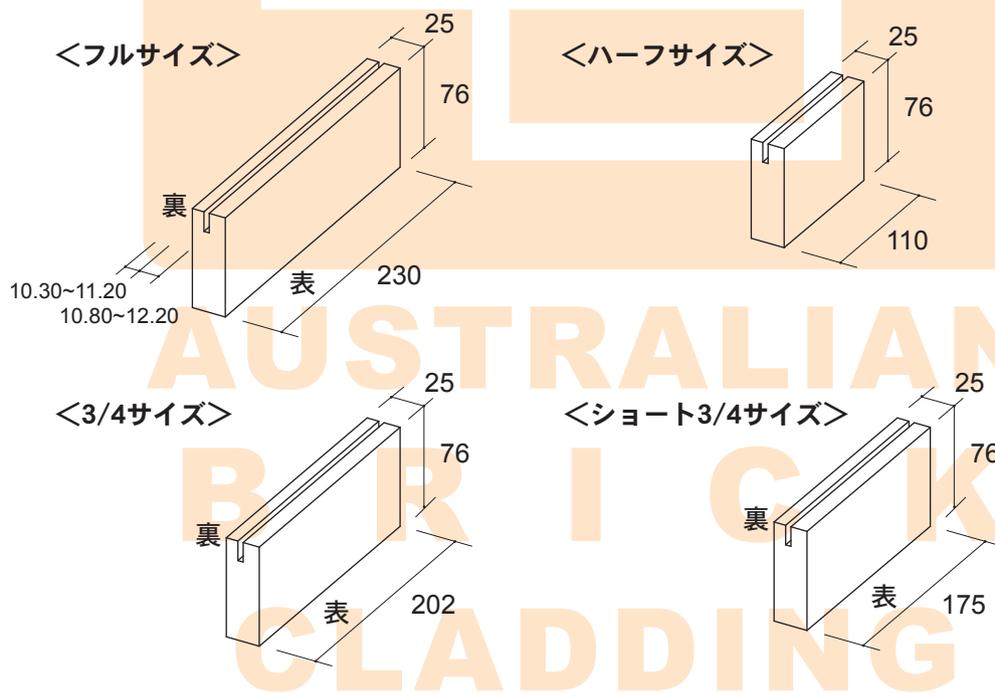
許容寸法誤差は下記の通り

長さーレンガ20個並べて±60mm

高さー同上で±40mm

厚さー±1mm/枚

※不揃いを特長とするレンガは 長さ±90mm、高さ±50mm、厚さ±2mm

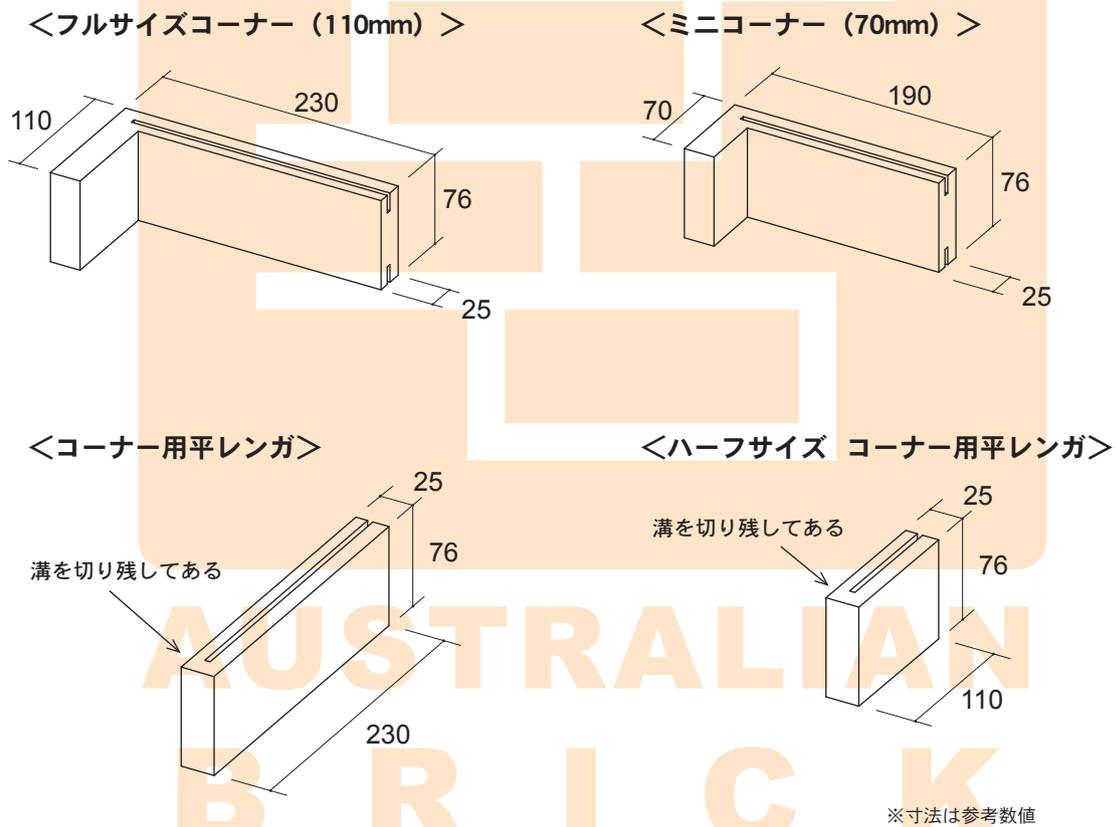


※寸法は参考数値

www.ale.com.au

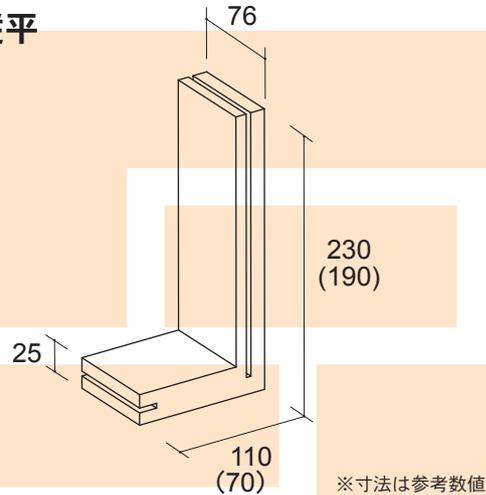
○コーナーブリック

- ・ L字型のブリックで長さ230mm (190mm)、厚さ25mm、高さ76mm、側面の片側に110mm (70mm) 幅の小口がついています。建物のコーナー部に使用し、左右を反転させても使用できるようにブリックの上下に切り込みが入っています。



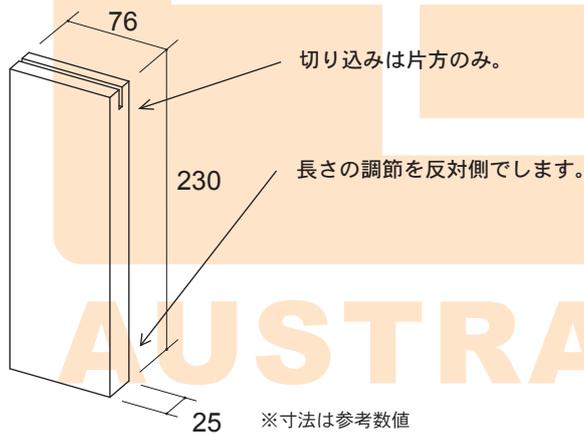
www.ale.com.au

○コーナー役物・曲がり縦平
共通L型

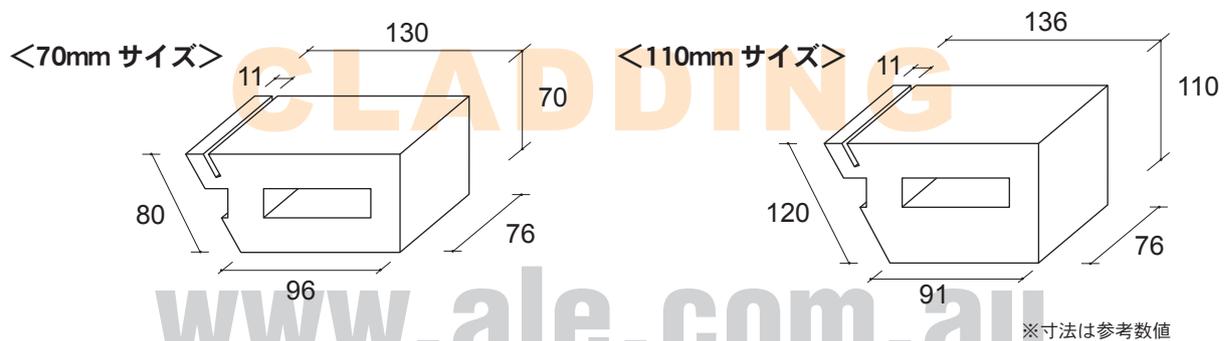


○タテヒラ

- ・ブリックを縦にしたもので、幅 76mm、高さ 230mm、厚さ 25mmで、切り込みの位置がブリックとは異なります。



○オーストラリア式窓下用 ABC「シル」ブリック

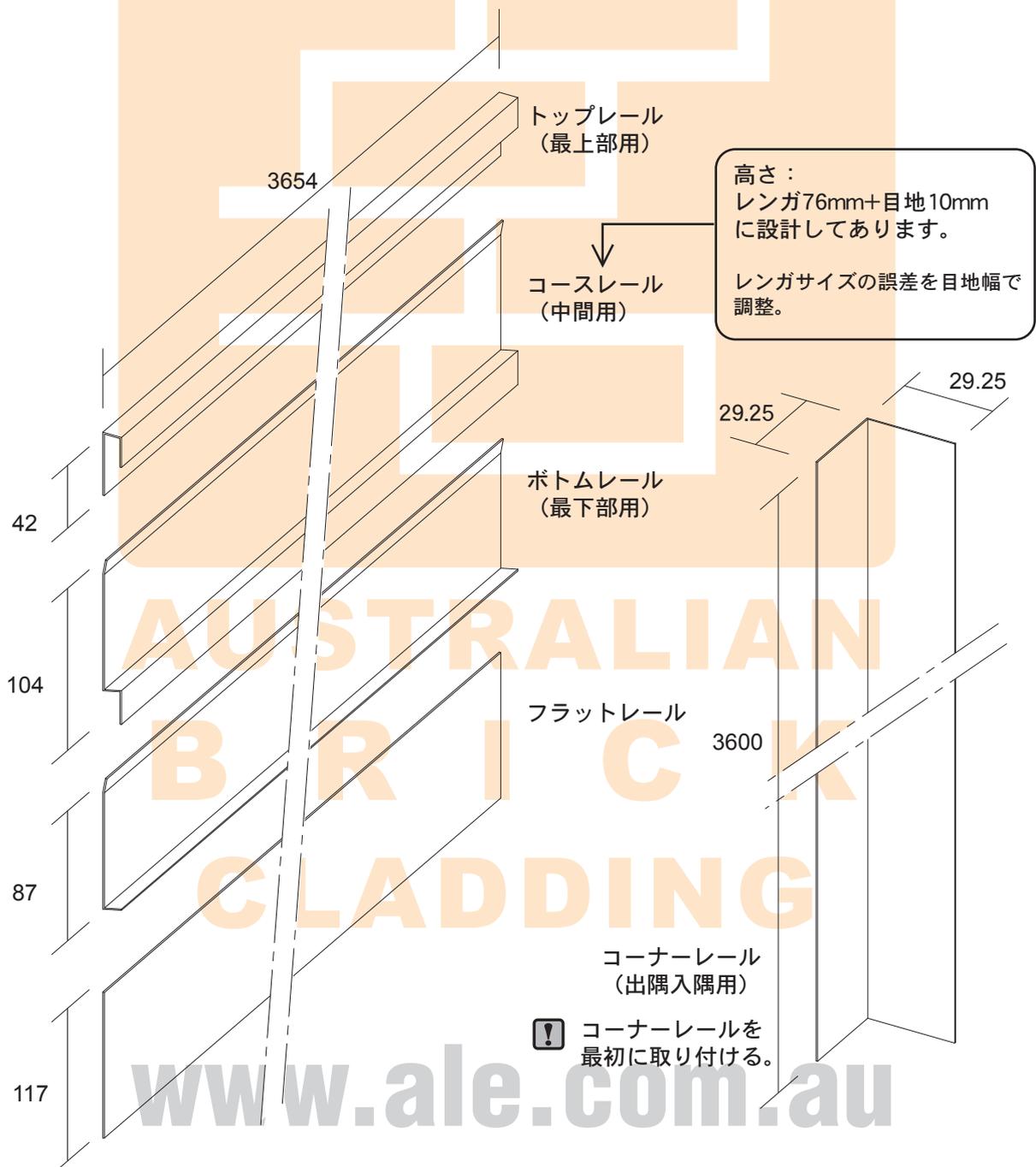


「シル」ブリックの右端用、左端用平レンガ有り。

② ABCシステムレールの仕様

・長さ3,654mm、厚さ0.42mmの垂鉛メッキ鋼板レールでトップレール、コースレール、ボトムレール、フラットレールがあり、出隅入隅用にコーナーレールがあります。

注) スチール工法等用に3600mm長さでも供給できます。



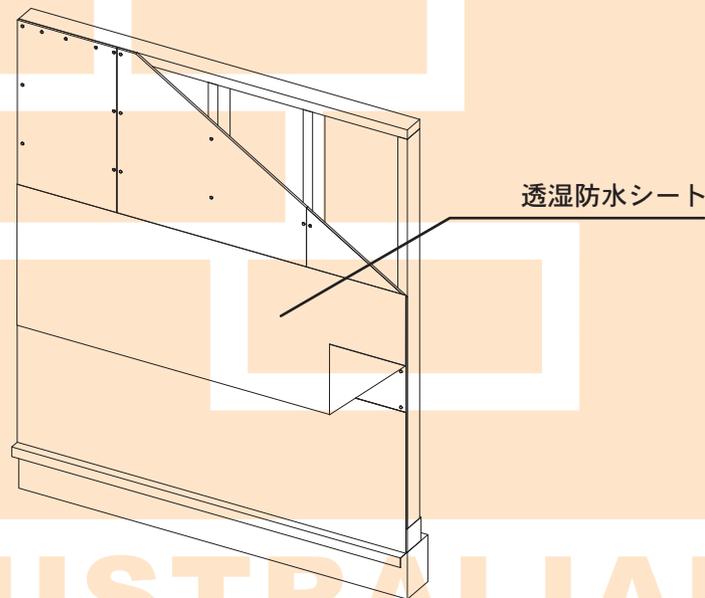
3 施工順序

<施工の前に>

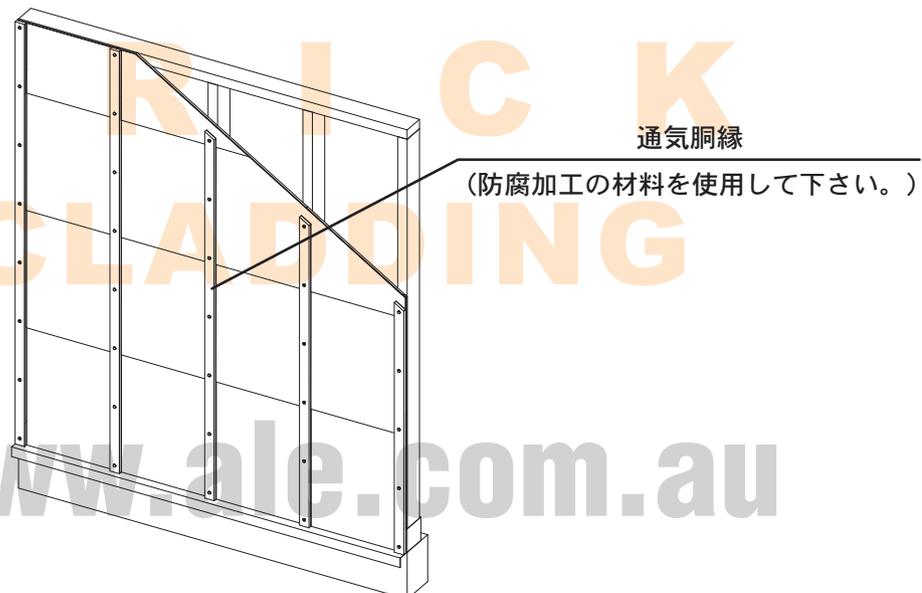
- ・ CAD設計で割付図を作っておくと施工現場で参考になり便利。
- ・ 全体の割付（特に高さの割付が大切）、窓廻り、出入り口廻り、庇との納まりなど、先に割付図でよく検討しておき、実際には施工環境に応じて現場で最終判断、調整すると良い。
- ・ サッシ廻り納まりをよく検討しておくこと。（付録の参考図参照 P34~P35）

A 施工イメージ

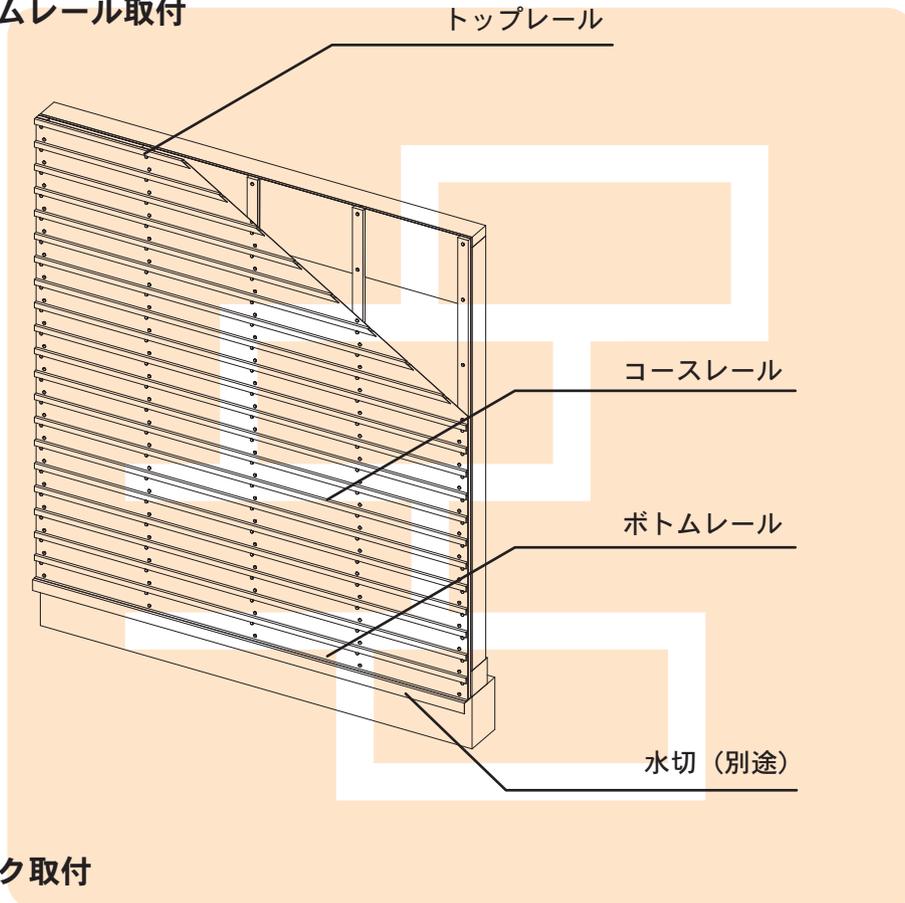
① 下地の上又は、下地合板の上へ透湿防水シート貼り



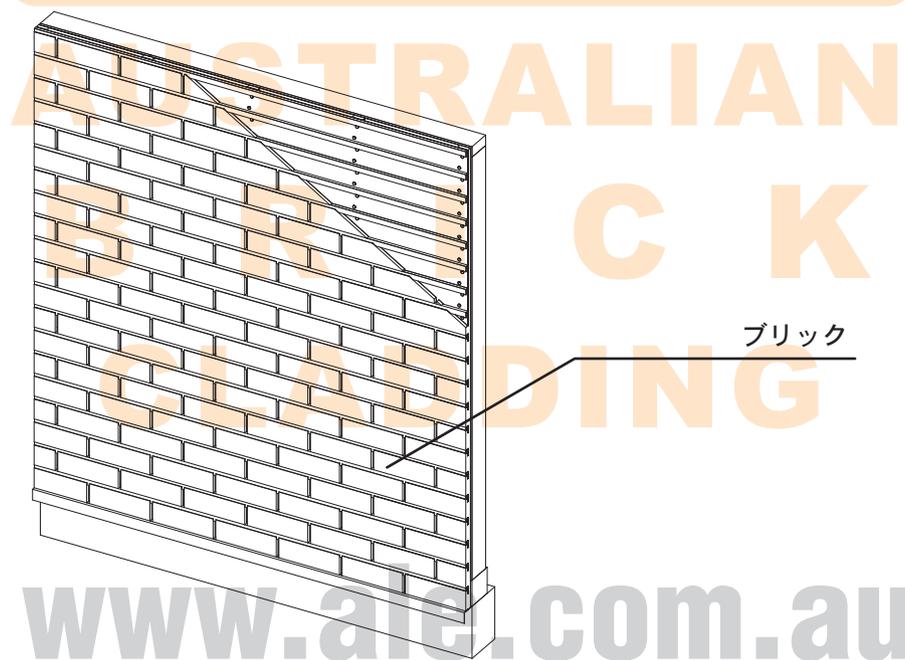
② 通気工法の場合は①の外へ通気胴縁取付



③ システムレール取付



④ ブリック取付



<タテ断面>

<タテ断面> 通気工法

トップレール

(コースレールの後ろに
取り付ける)

トップレール

コースレール

コースレール

構造合板

透湿防水シート

通気タテ胴縁

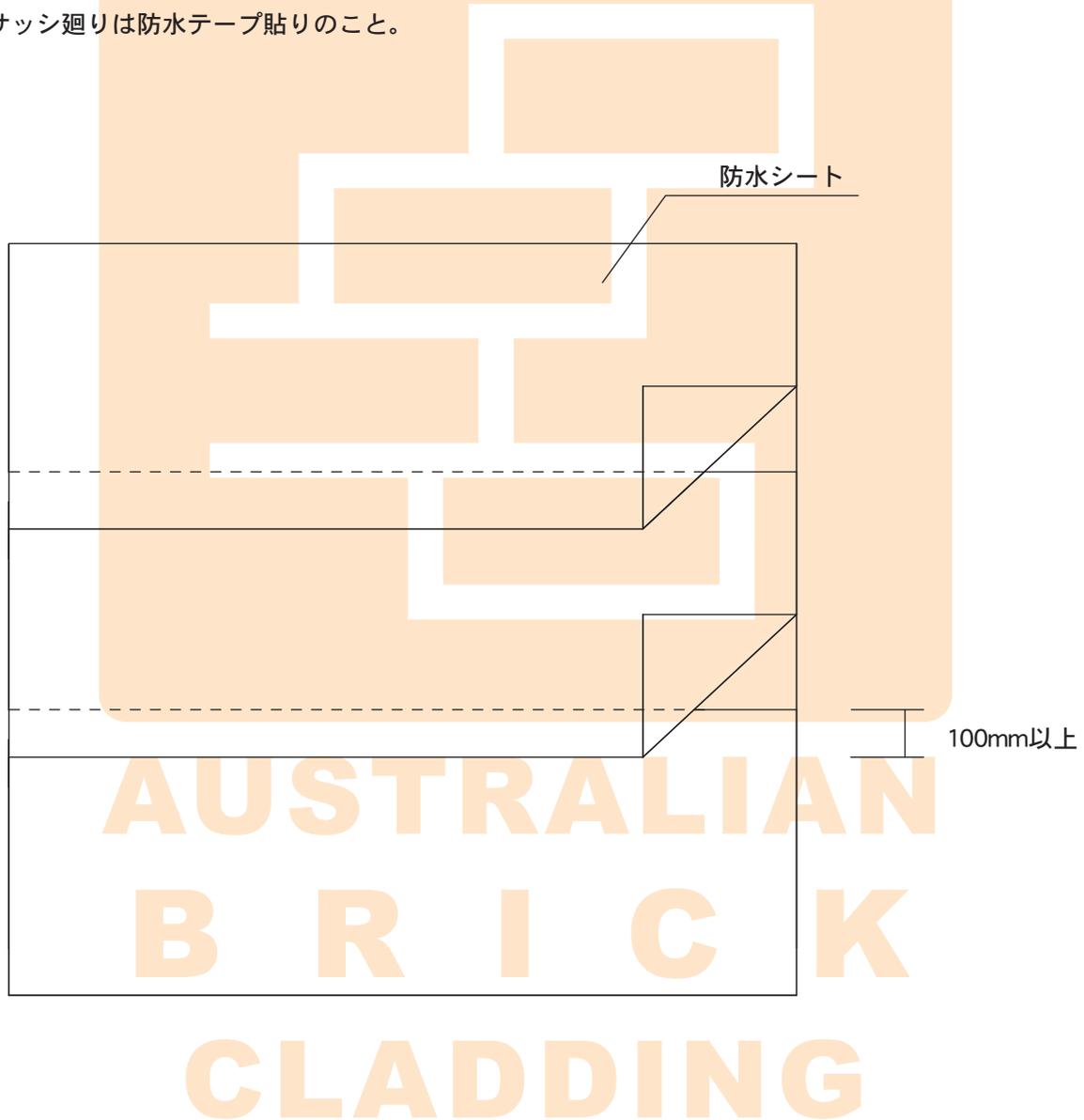
ボトムレール

ボトムレール

www.ale.com.au

B 防水シート貼り

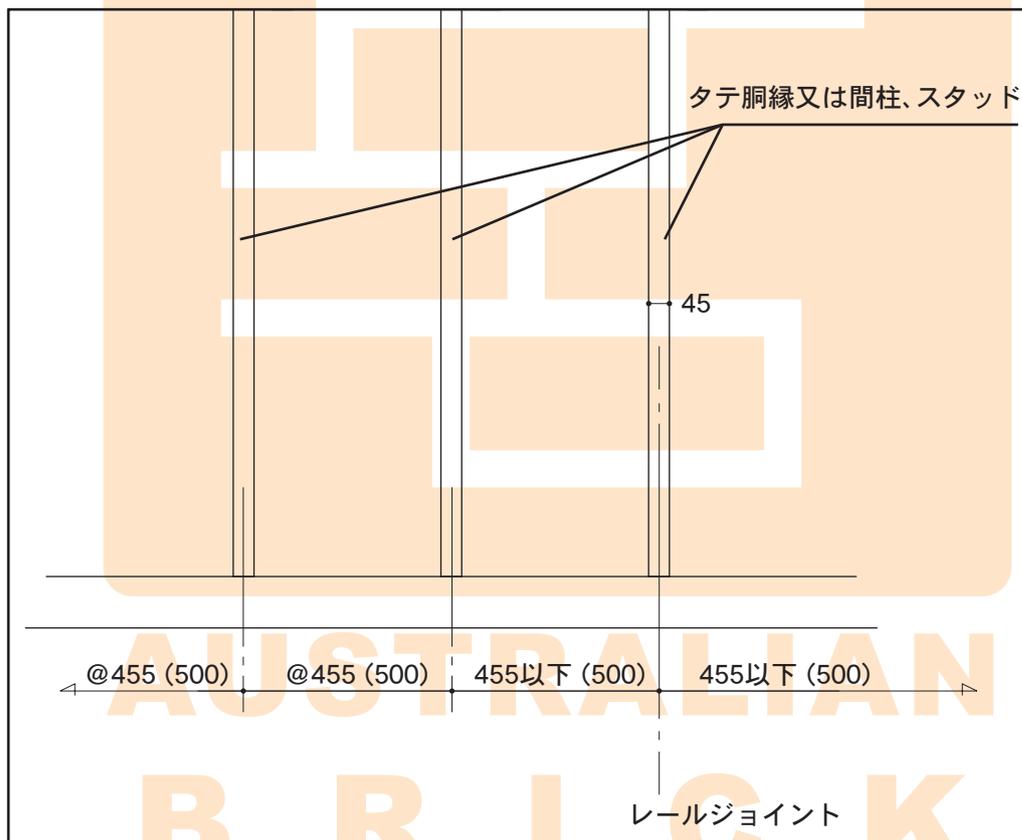
- ・ 透湿シートを下から上へ貼っていく。重ね代は100mm以上。
- ・ サッシ廻りは防水テープ貼りのこと。



www.ale.com.au

㉓ 下地

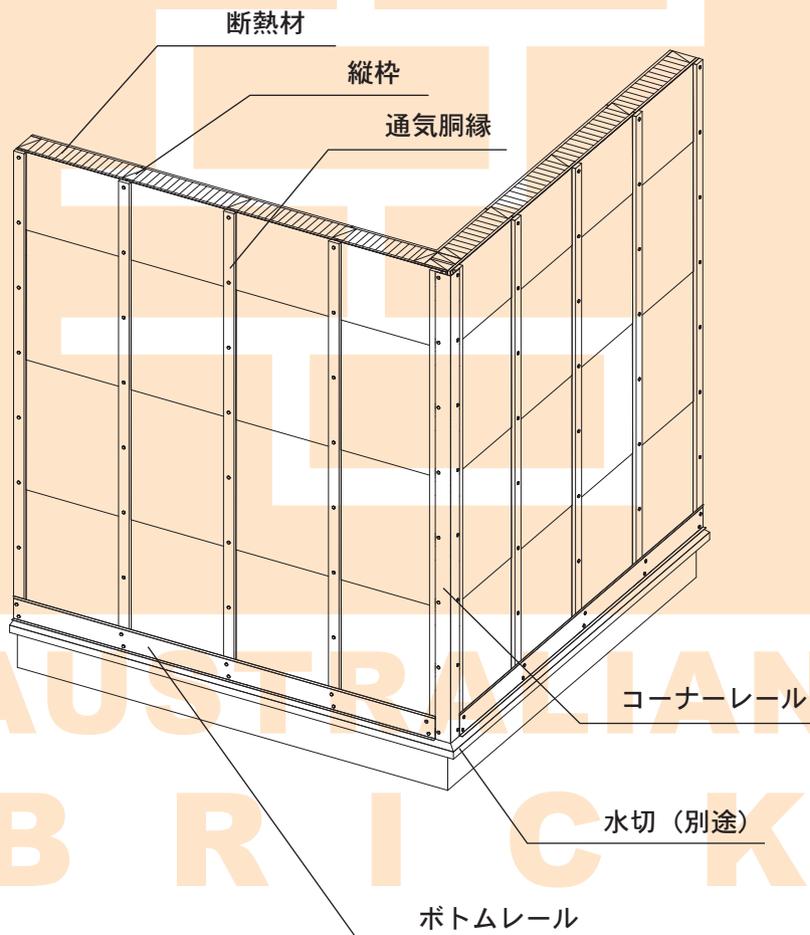
- ・タテ胴縁又はタテ胴縁を兼ねた間柱、スタッドを@455mm (500mm) に入れておくこと。
- ・レール長さを考慮し、ジョイントの位置に巾 45mm以上のタテ胴縁が必要。



www.ale.com.au

D 通気胴縁

- ・通気工法の場合は透湿防水シートの外へタテ胴縁(通気胴縁)を取付け@455mm(500mm)。レールのジョイント部にもタテ胴縁取付。



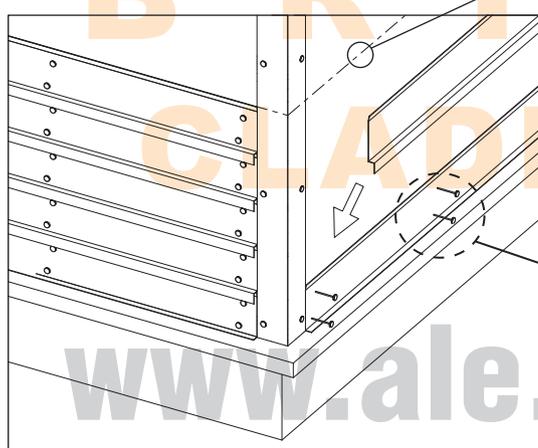
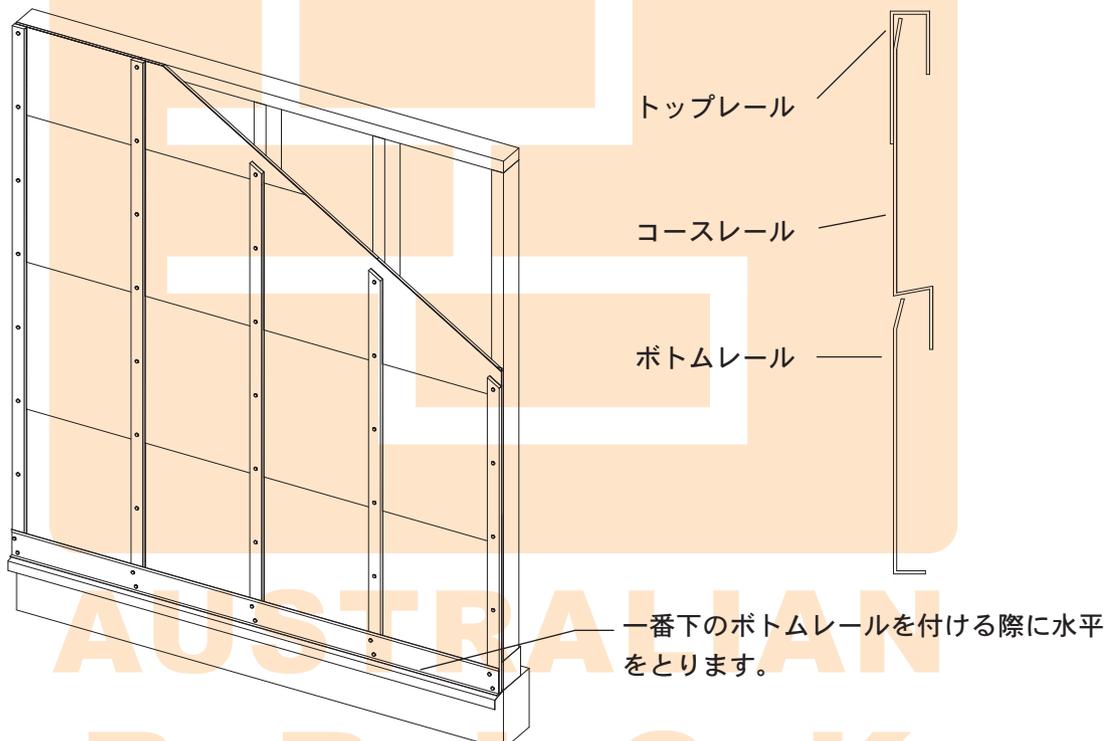
www.ale.com.au

E ABCシステムレール取付 (レール長は標準で3654mm)

・割付図を参考に、躯体水切→ボトムレール→コースレール→トップレールの順に取付。

! 5段毎に水平チェック。この際、下図のように5段毎に墨出しをしておくことと正確に取付けが可能。

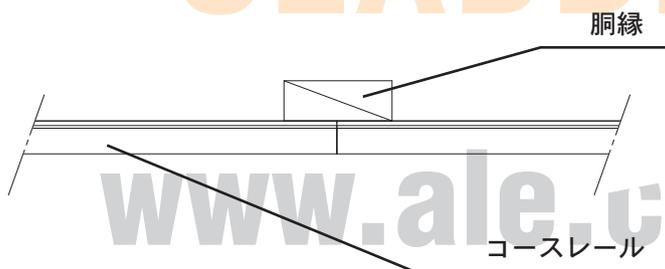
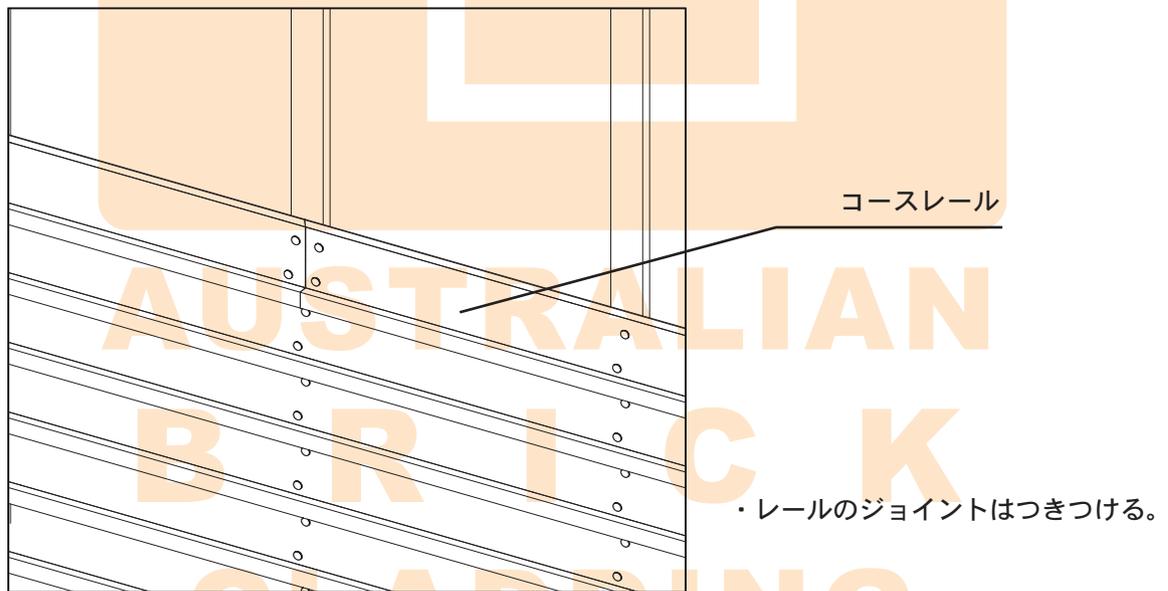
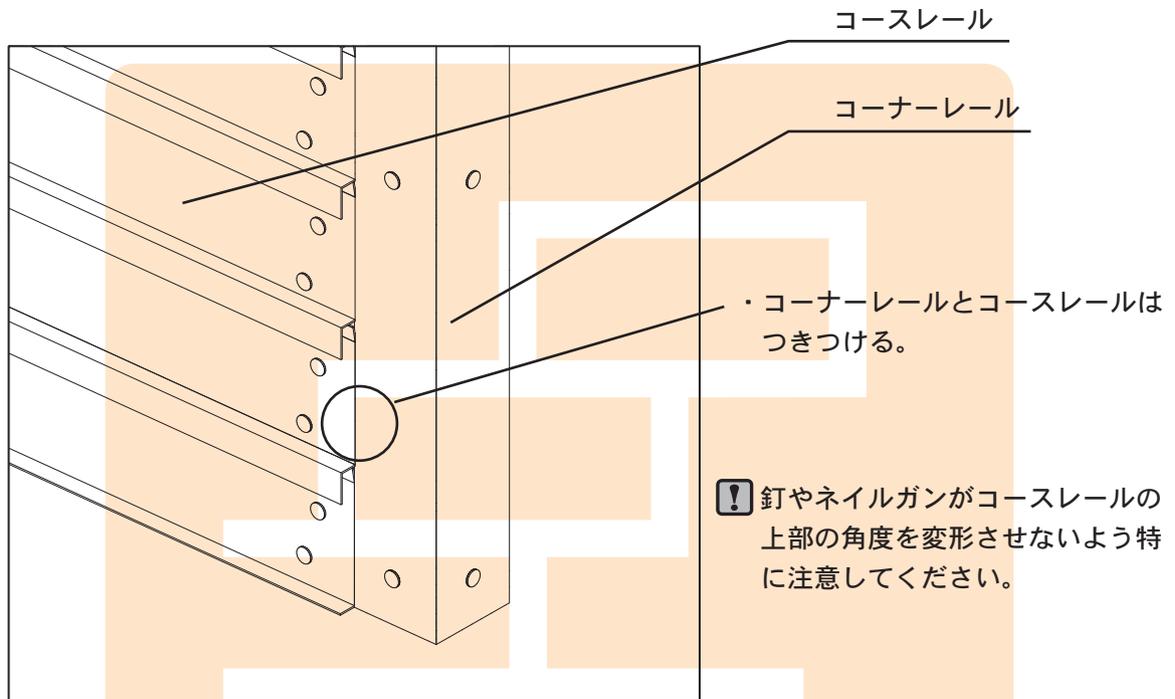
- ・レールの取付は必ず水平にすること。
- ・レールのジョイントはずらすこと。(強度が増します。)



! 5段毎に水平チェック。(墨出し)
コーナーが水平であることを
確認することが大事です。

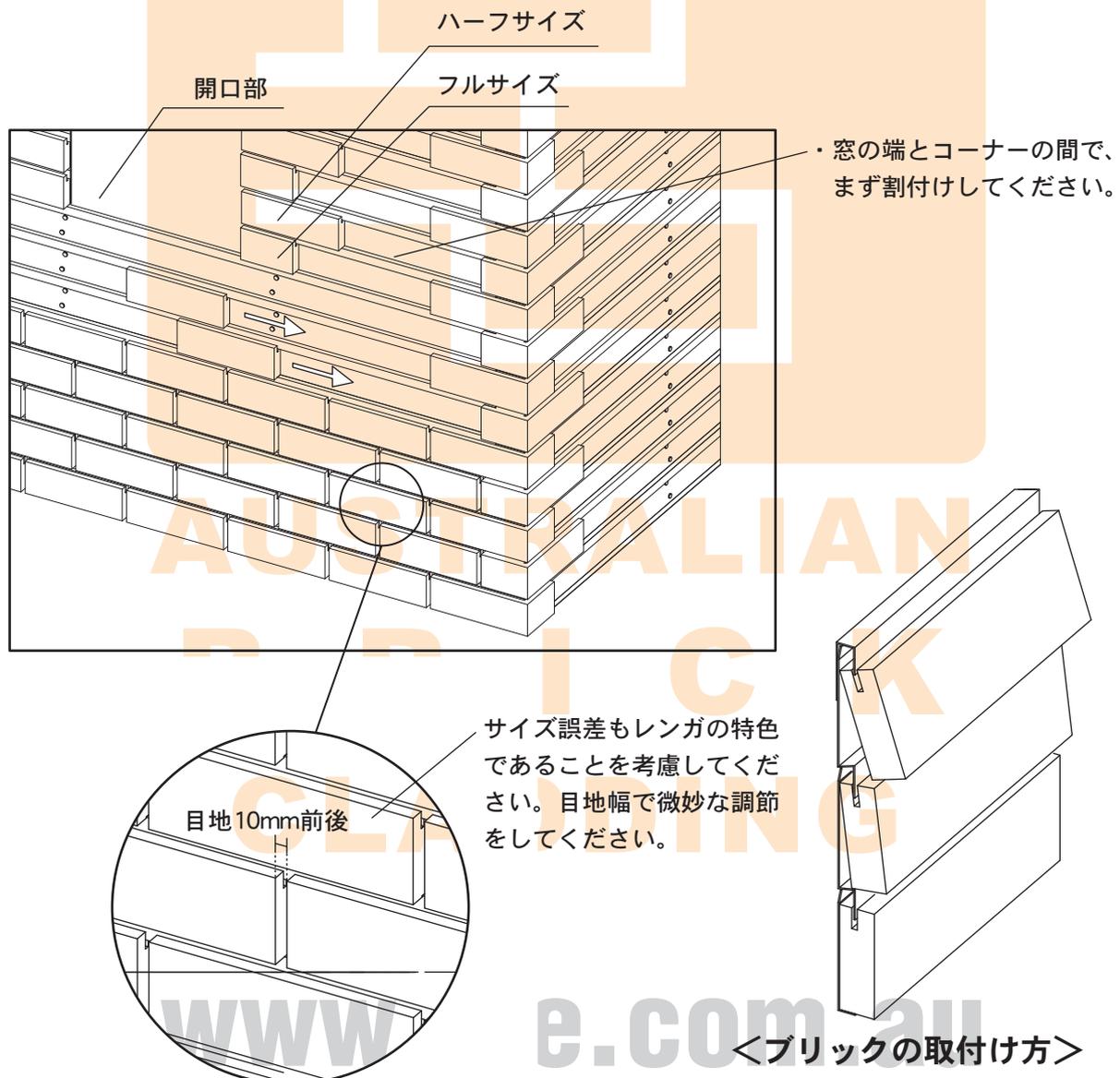
レール上部、下部の角度を変形させない
ように注意。ネールガンが角度を押し、
変形させないように釘の位置を考える。

- ・釘は2本打ちとする。
- ・釘の長さは標準仕様で50mmの
ものを使用する。
(38mm以上の釘が必要です。)



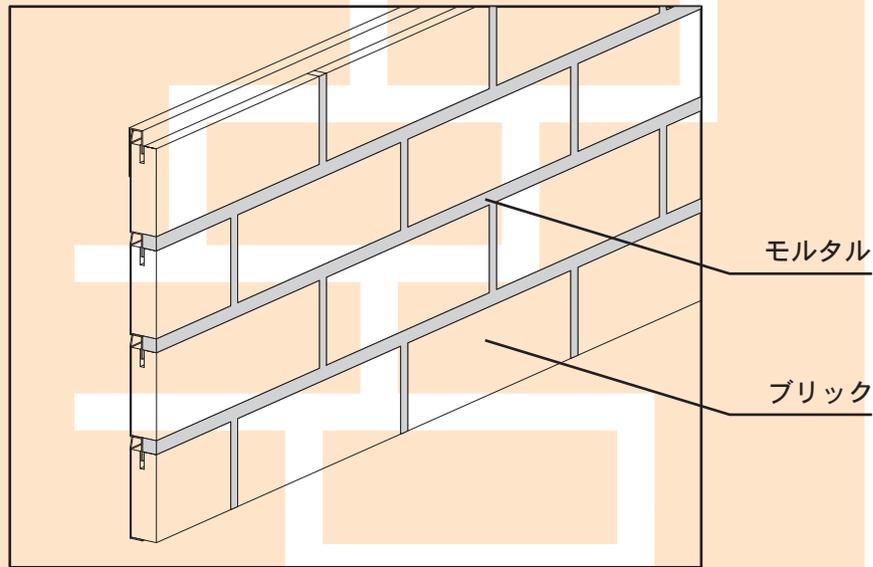
F ABCブリック取付

- ・コーナブリックと開口部(開口部がなければ反対側コーナー)まで、まず2段を要所要所割り付けて納まりを見てください。
- ・開口部の周りにはハーフとフルサイズのレンガを使用してください。
- ・縦目地を合わせるだけがレンガ仕上げのルールではないことを忘れないように。(タイルの概念からの脱却！)
- ・目地は精密に測るのではなく、全体のバランスで見極めてください。



③ 目地モルタルつめ

・ 深目地(ブリックより引込めた目地)と平ら目地がある。(深目地の深さは5mmまでとする。)

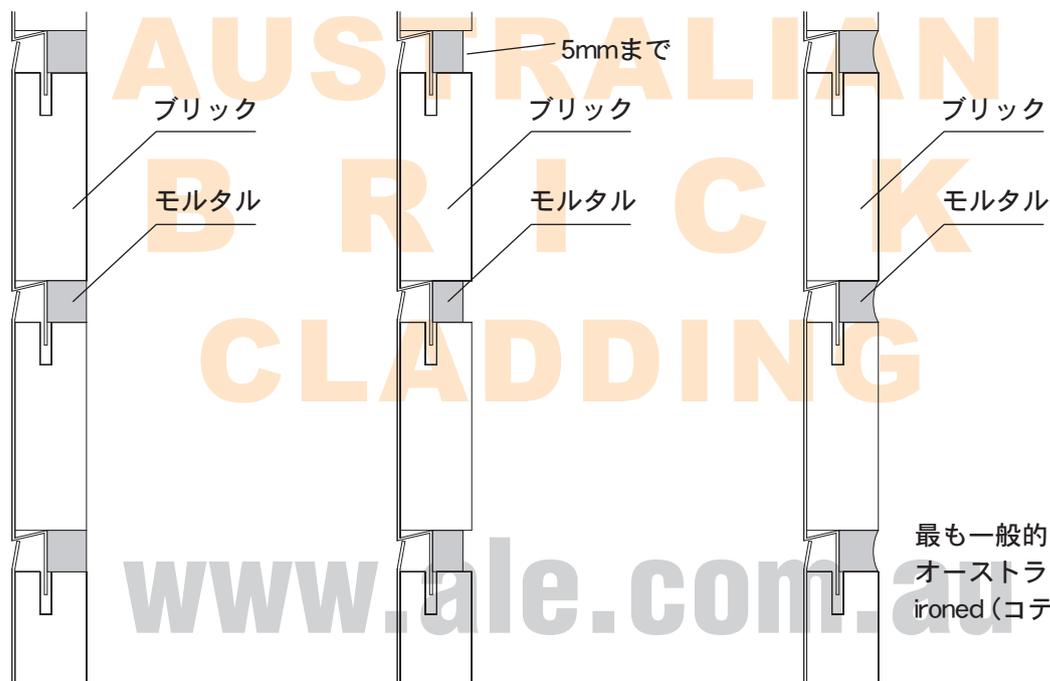


<平ら目地>

<深目地>

raked

ironed



最も一般的
オーストラリア式
ironed (コテ押え)

4 施工詳細

H 施工に欠かすことのできない工具類

レール水平取り用	<ul style="list-style-type: none"> ・大型差金(スクエア) ・レーザー光線レベル(最初の段の水平取りに便利。特に最初の段を最上部または最下部以外から始める場合。) ・長め、短めの水平器
レール裁断用	<ul style="list-style-type: none"> ・金物バサミ 3点セット(右カーブ、左カーブ、直線カットの3点) ・硬いブラシ(止む終えず電動切断機使用の場合、飛び散った金屑をレールから取り除く。) ・亜鉛メッキスプレー(電動切断機による切り口がギザギザな場合は金屑を取り除いてからスプレーで切り口を保護する。)
レール取り付け用	<ul style="list-style-type: none"> ・ネールガン(軽量のコイル式ガンが使いやすい。) ・ハンマーと釘締め(完全に打ち抜けていない釘を仕上げる。) ・パール(こじり棒・台付きてこ)(レールが正しく取り付けられなかった時、レールを取りはずす。) ・プライヤー(少し変形したレールをまっすぐにする。)
レンガ貼り用	<ul style="list-style-type: none"> ・水使用タイプレンガ切断機 ・ゴミ吸い取り式レンガ切断機 いずれも安定性のある台がついていること。 ・施工するレンガに適したダイヤモンドカッター(刃) ・ベビーサンダー、レンガ切断用、研磨用ディスク ・シリコン・ガン(コーキング) レールに入らない部分用(底など)
目地付け用	<ul style="list-style-type: none"> ・長いホース 目地付けの前にレンガ壁面をしめらせておき、目地材がゆっくり強く固まるようにする。 ・周囲の養生にプラスチックシート、テープなど。 ・バケツとミクシング棒(ミクサー) ・セメントミクサー(大型プロジェクトの場合) ・目地ガン ・スピアの目地ガンの筒(目地付けがスピードアップできる。) ・目地ガン消耗パーツ ・目地注入袋(布製またはプラスチック製) 目地ガンと併用または単独で使用。 ・目地ガンや袋を洗浄するバケツ ・ヘラ、コテ(目地を押さえる。) ・硬いブラシ(余分な目地を取り除く。) ・バケツとスポンジ(最後の壁洗い。)

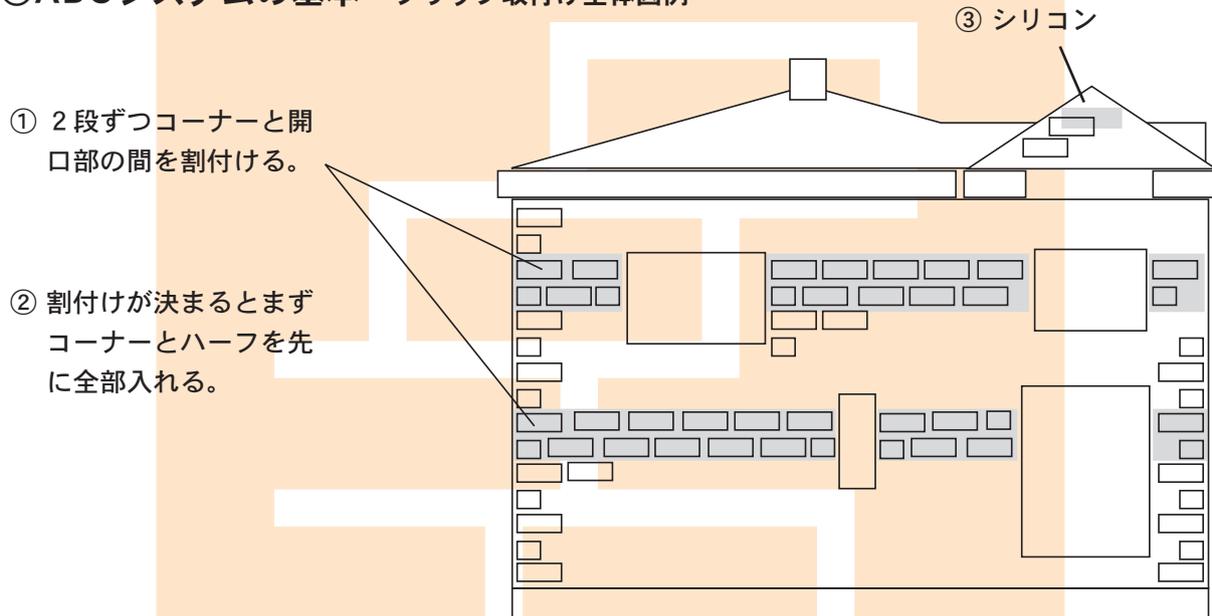
① ABCシステムレール取付

- ・システムレール取付の前に、高品質の透湿防水シートを壁面に張り、通気タテ胴縁を打っておきます。
 - ・レールの取付は、標準仕様で長さ 50mm (最低 38mm) の頭の平らな高品質亜鉛メッキ釘を使用してください。頭の丸く盛り上がった釘を使用すると、ブリックをはめた時に表面が飛び出る可能性があります。
 - ・システムレールは、最上部(トップレール)・中間部(コースレール)・最下部(ボトムレール)に分かれていますので使用箇所に注意してください。
 - ・先にボトムレールを一番下に取り付けますが、その前に水切り金物(別途)を取り付けて下さい。この時点で水平を確認してください。
 - ・出隅入隅にコーナーレールを使用する場合は、まず最初にコーナーレールを取り付けてください。
 - ・縦平や ABC「シル」ブリックの後ろにはフラットレールを使用します。
- !** コースレールは、耳状の突起辺のある方が下になりますので、確認してから釘で固定していただきます。
- ・釘(50mm)はレール中間部で、胴縁を貫通させ、柱など躯体に留め付けしてください。2本打ちで、ネイルガンやネイルがレール上下の角度を変形させないように位置を考えてください。
 - ・釘を打っていくと、レールの間隔が変わってきってしまうことがありますので、割付定規で間隔を確認しながら作業を進めてください。5段毎に水平チェックをすること(レール5段毎に墨出しを行なうのが理想)。建物のコーナー部分がきれいに水平に揃うようにしてください。
 - ・レール間の繋ぎ目は胴縁部分でつきつけで施工してください。

www.ale.com.au

J ABCブリック取付

○ABCシステムの基本 –ブリック取付け全体図例



① 2段ずつコーナーと開口部の間を割付ける。

② 割付けが決まるとまずコーナーとハーフを先に全部入れる。

※縦目地を通すだけがレンガ仕上げのルールではないことを認識しましょう。
ハーフ以下のレンガを使わず、全体のバランスを保つ様に心掛けて美しいレンガ仕上げを目指してください。

- ① コーナーと開口部（開口部がなければ反対側のコーナー）までを2段ずつ所要所割付けてみる。開口部ワキにハーフより小さいサイズは使わず、ハーフとフルサイズのモノで割付けます。カットが必要であれば、数個ずつカットする。それによりカットしたレンガが目立たず、縦目地の微妙な調整も肉眼でもわかりません。
- ② 試し2段が納るとその部分のハーフ、コーナーをまず先に全部入れる。カット部分の寸法はわかっているの、必要数のカットをして残りの壁面を埋める。
- ③ 底下などレンガがレールに入らない小さいものはシリコン(コーキング)でのり付けする。

www.ale.com.au

- ・色のバランスを良く保つため、1個のパレットからではなく2個、3個からレンガを使用すると良い。
 - ・ブリックはレールの耳の部分にレールを押し上げる要領ではめてください。いったんはまると下のレールに載って安定します。
 - ・ブリックの目地は平均 10mm開けてはめていってください。
- !** ABC システムレールにレンガを取り付ける際、レールに入らない底下などを除いてシリコン等の接着剤は一切必要ありません。
- ・コーナーから順番にブリックをはめていき反対側のコーナーまではめ終えた時、ブリックがバランス良く並ぶよう平ブリックを調整し施工してください。
- !** 作業を進めながら、飛び出していたりしっかりとハマっていないブリックの修正と、ブリックの継ぎ目が正しく並んでいるかどうかの確認を行ってください。(目地合わせは肉眼に自然に見えること。定規で計ったように正確である必要はありません。)
- ・目地のモルタル作業は、ブリックの取付が全て終了してから行ってください。目地注入前にレンガの色のブレンド、割付け目地のバランス、コーナーがまっすぐに入っているかを確認する。(施主さんに見せるのなら目地注入前に見てもらおうと良い。)

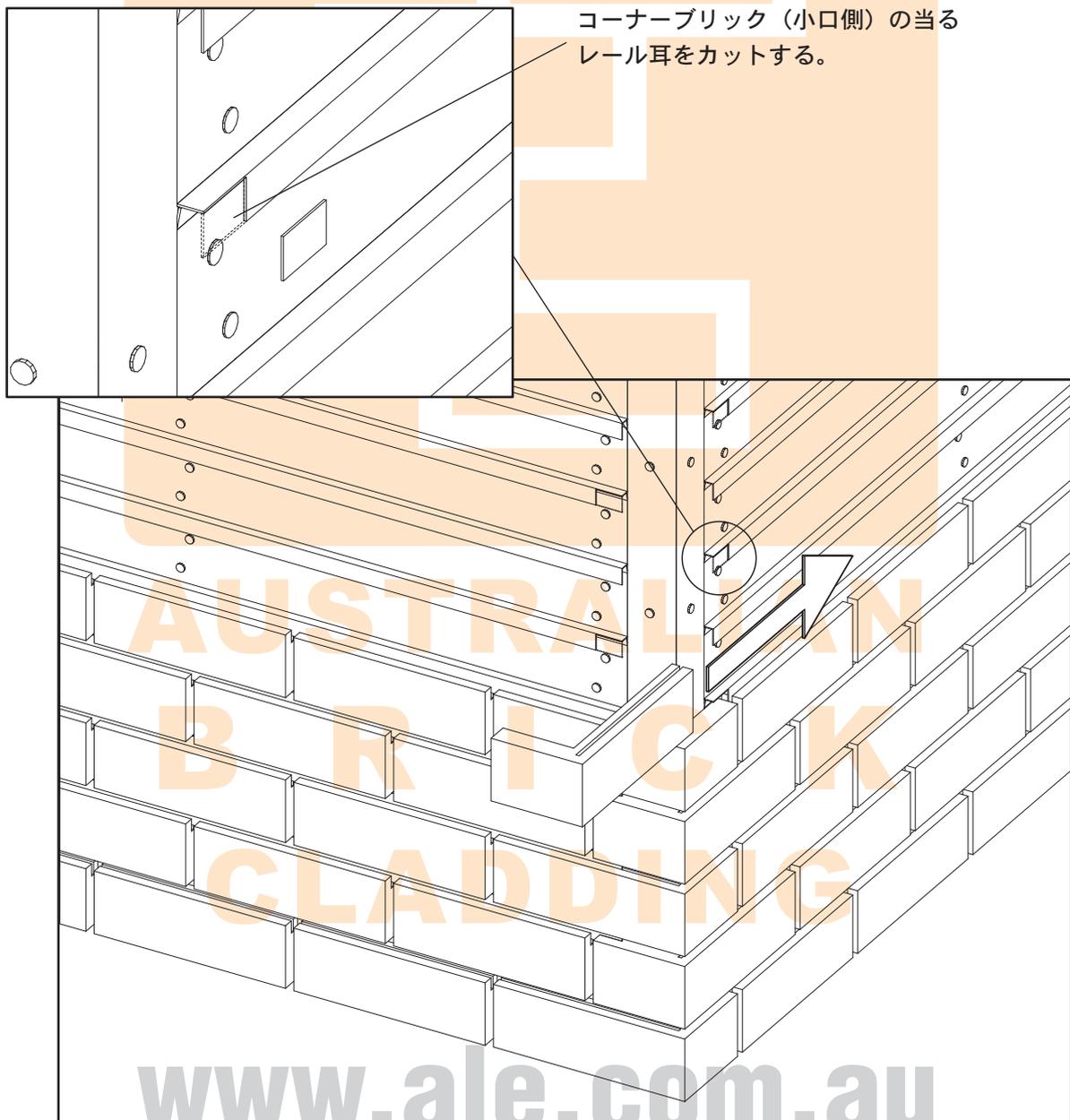
AUSTRALIAN B R I C K CLADDING

www.ale.com.au

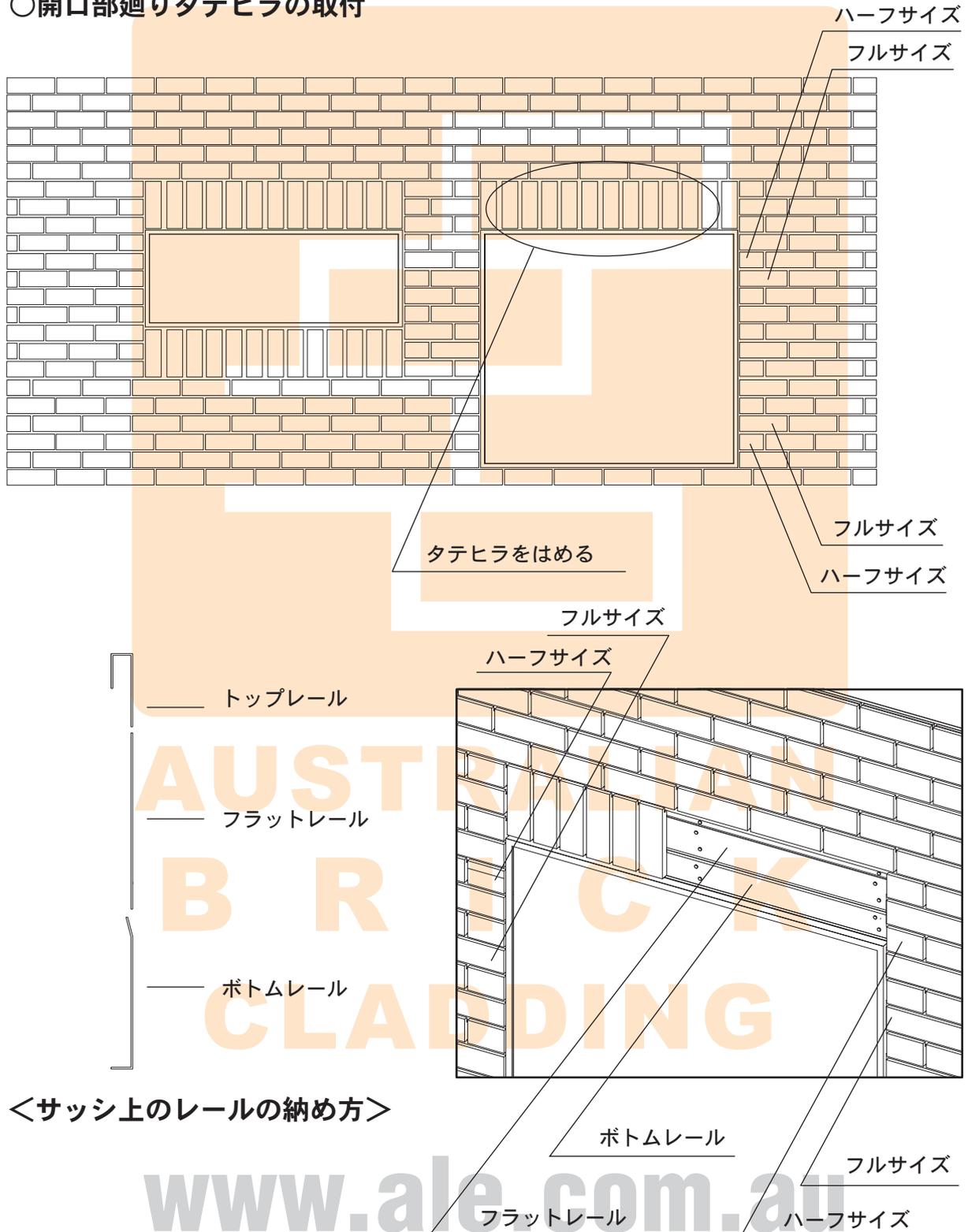
○コーナブリックの取付

・コーナブリックの取付は、システムレールの耳部分を切り取ってはめてください。

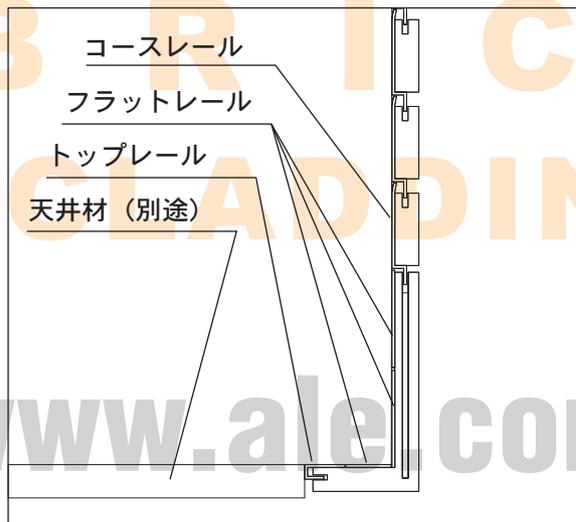
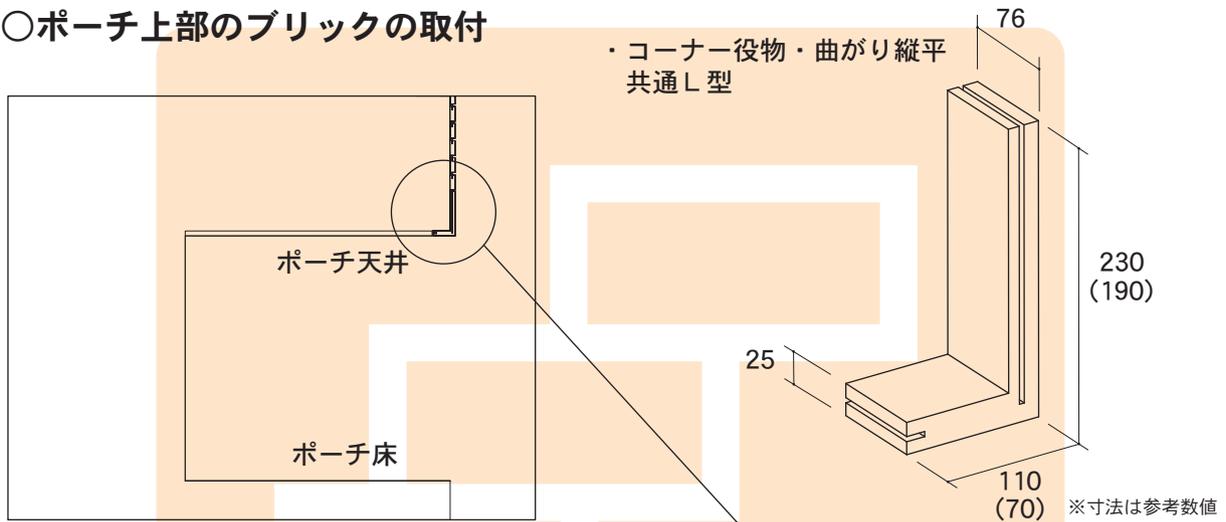
! ABC のコーナーには小口側には溝を入れてありません。レールをカットせずブリックの小口側に現場で溝を入れて押し込めると、レールを变形させたりコーナーがまっすぐに入らない原因になります。



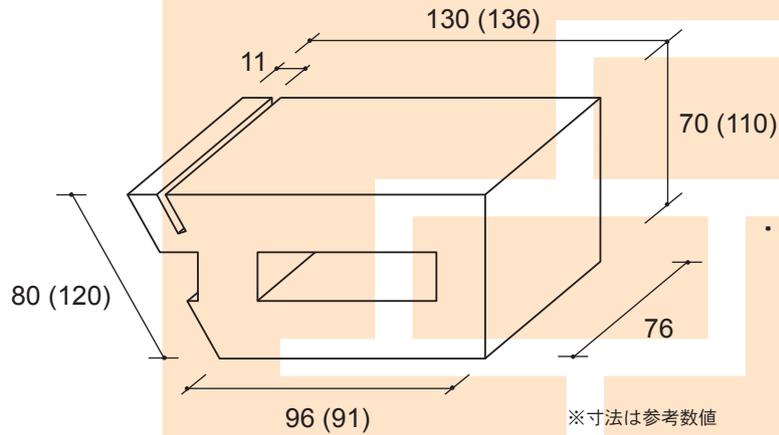
○開口部廻りタテヒラの取付



○ポーチ上部のブリックの取付

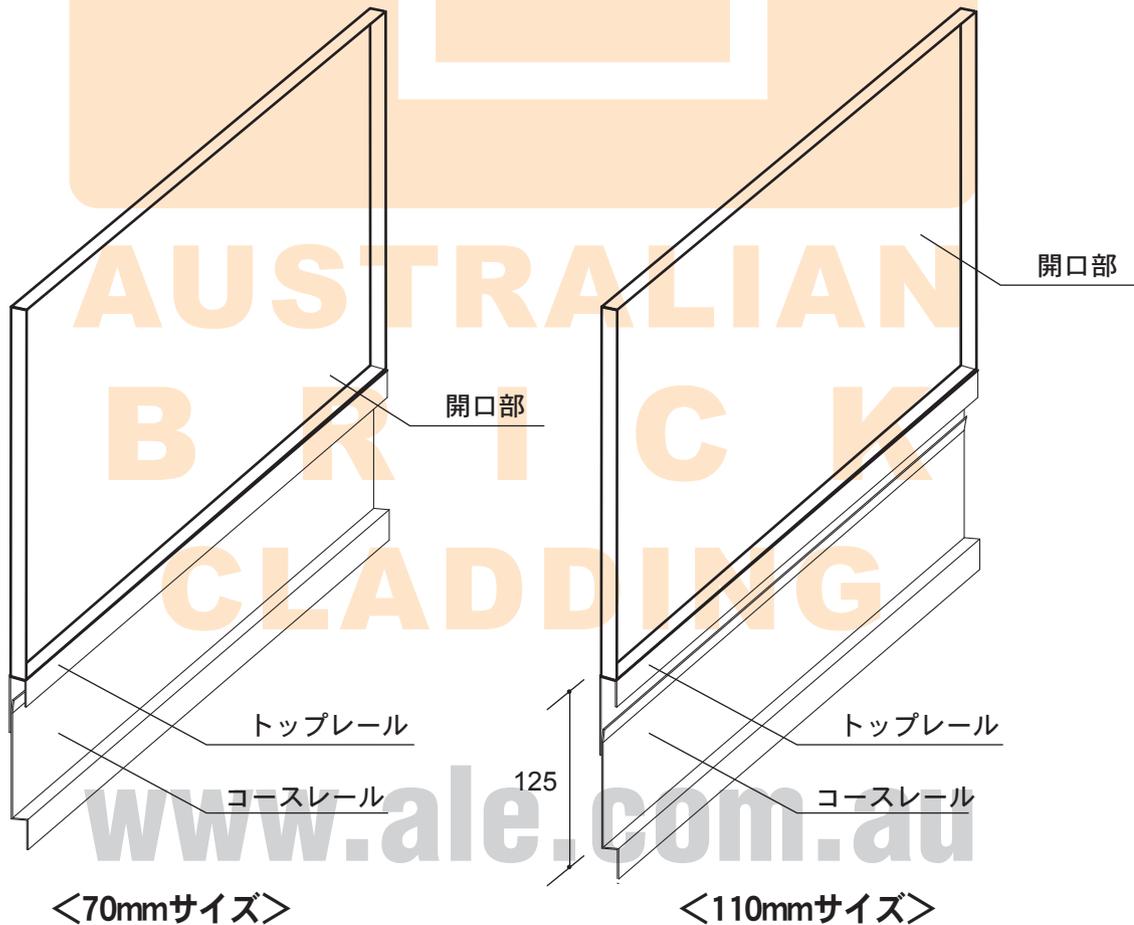


① オーストラリア式 窓下用 ABC「シル」ブリック



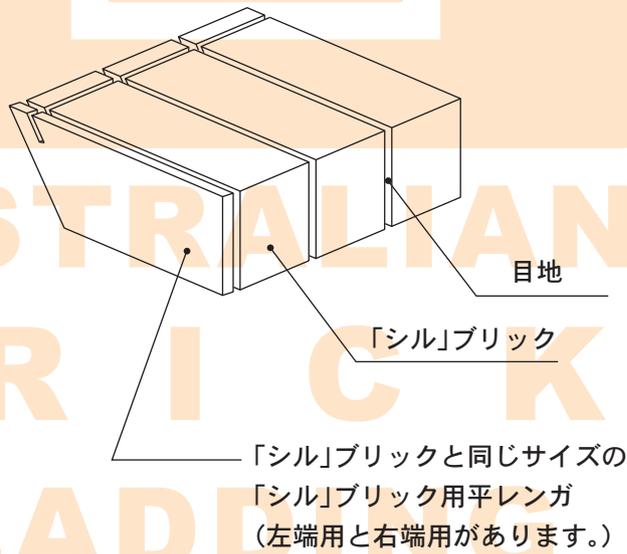
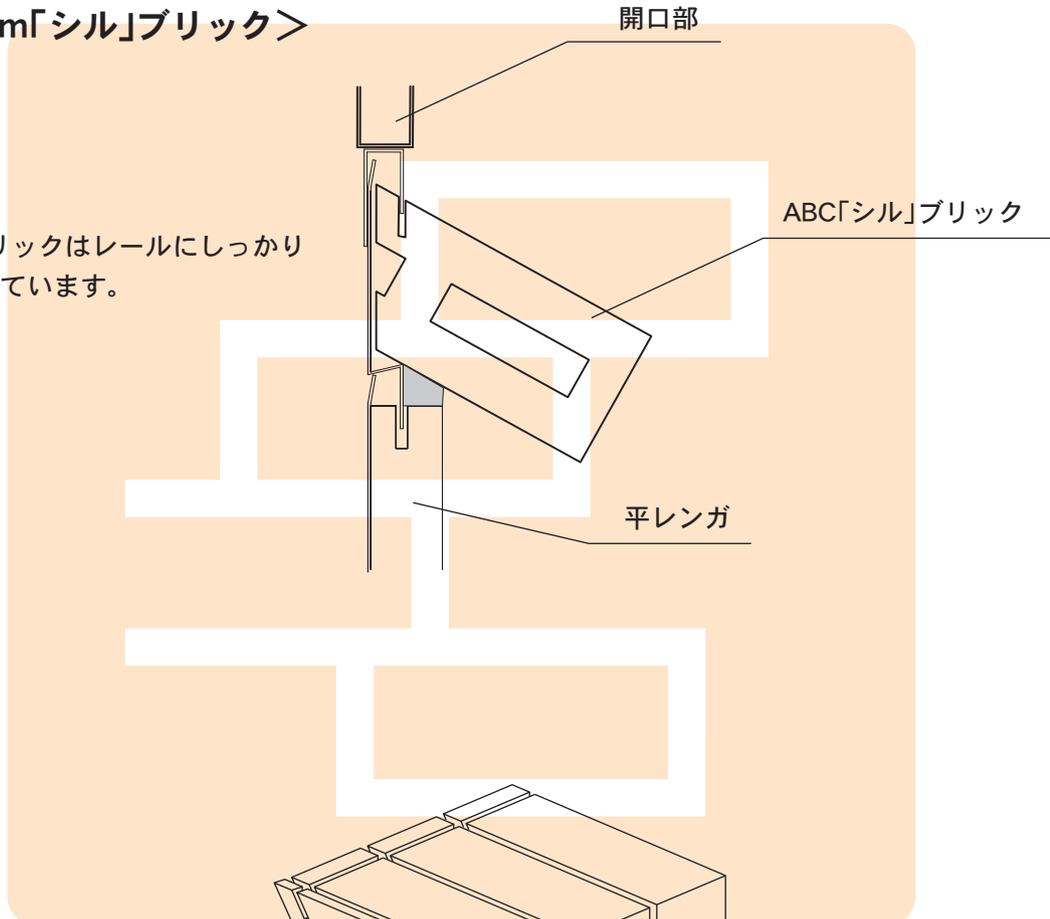
- ・まずトップレールとコースレールを窓下に通常と同じ方法で取付けます。その後壁のその他の部分にレールを取付けます。

○窓下のレールの取付け



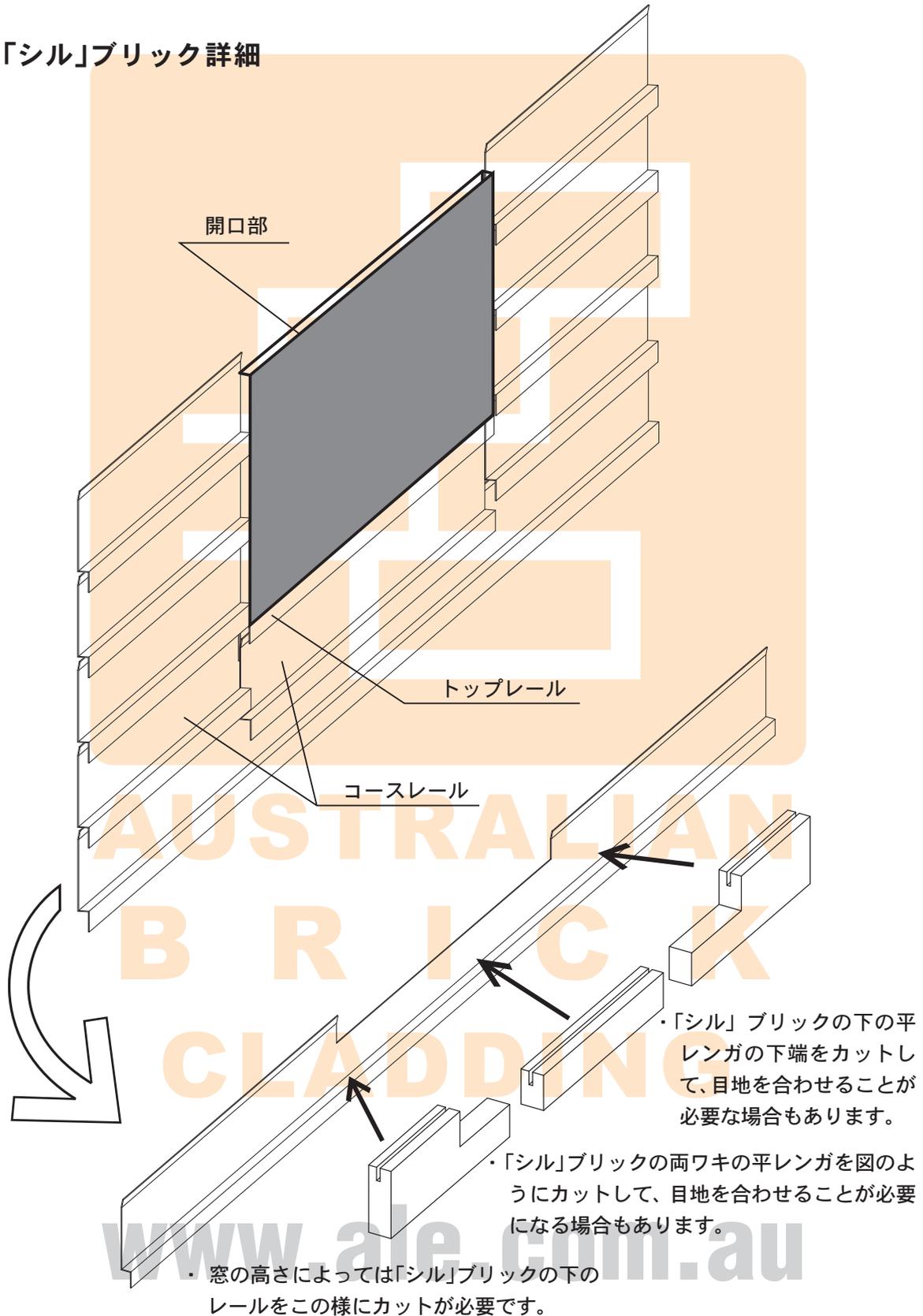
<70mm「シル」ブリック>

- ・「シル」ブリックはレールにしっかり
支えられています。



www.ale.com.au

○「シル」ブリック詳細



L 目地モルタルつめ

- ・目地の仕上には目地モルタルを使用してください。
- ・モルタルの硬さは、モルタルをブリック・ガンかモルタル袋に入れて調べてください。ソフトアイスクリームの感触を目安にして下さい。
 1. モルタルが袋から流れ出すようであれば軟らかすぎです。
 2. モルタルがしたたり落ちるようであれば最適です。
 3. モルタルが袋の中から出てこないようであれば硬すぎです。
- 注) 砂の粒子が粗いと目地モルタルには不適です。また目地ガンに使用するのも困難です。適度に粒子が細かいオーストラリア産の砂をお勧めします。
- ・目地モルタルを目地づめする前に目地部分の清掃を行い、周囲の養生を行なってください。
- ・目地注入前にホースで十分に壁面を濡らします。特に日当たりの強い時必須。(これにより目地がゆっくりに強く固まります。)
- ・寒冷地の施工においては、モルタルが硬化する前に 2℃以下になる恐れがある場合は必要に応じ採暖してください。
- ・目地モルタルを目地づめしながら、周囲のブリックを確認して行ってください。もし、ブリックが飛び出している箇所があったり、曲がっている箇所があれば必ずこの時点で調整してください。
- ・1袋目のモルタル目地づめが終わったら、モルタルが完全に乾く前にコテで仕上げてください。
- ・モルタル目地の仕上げは、モルタルとブリックの仕上がり面を同一にする方法(平ら目地)とモルタルを押し込んで仕上げる方法(深目地)があります。深目地はレンガ表面から 5mm 位までにとどめると良い。
- ・コテ仕上げが済んだら、モルタルが「完全に硬化していないがかなり固まった状態」でバケツにきれいな水を入れスポンジでレンガ壁面を洗う。この段階ではバケツの水を頻繁に取替え、常にきれいな水を使用することが寛容です。モルタルの乾き度が充分でないとモルタルが壁に広がってしまい酸性剤での洗浄が必要となってしまうので注意が必要。
- ・モルタルが完全に乾き切ったら硬いブラシで塵や余分なモルタルを取り除く。その後、ホースで壁を洗い流す。ブラシをかけても残った軽い汚れは水に酸性剤をほんの少したらしてスポンジ洗いし、その後充分にホースで水洗いする。
- ・酸性剤での洗浄が必要な場合は、適切な酸性剤を選んだ上で正しい割合で配合し、レンガ壁面を必ず濡らしてから溶液をかけてください。洗浄が済んだら酸を壁面に放置せず、充分に水洗いします。酸を壁面に不必要に長く放置すると、酸がモルタルのセメントに害をもたらしてモルタルを弱化させます。
- ・酸性剤を使用する際は、保護メガネ、ゴム手袋等で身体を守り、薄い濃度から始め小面積でテストしてから壁全体に使用するようになしてください。

5 注意事項

- ・ 取り扱いの際、特に切断作業の場合は、ゴム付き手袋や保護眼鏡などの適切な保護具を着用してください。けがをする恐れがあります。
- ・ 火災を防止するため、煙突などの加熱箇所との取合いには、眼鏡石など有効な部材をご使用ください。
- ・ 弾性接着剤をご使用の際は、接着剤の取扱説明書に従って正しくご使用ください。
- ・ 電動工具などの工具をご使用の際は、各工具の取扱説明書に従って正しくご使用ください。
- ・ レールの切り口は大変シャープです。手袋をはめての作業をお勧めします。
- ・ レンガもモルタルも手の皮膚に刺激的です。レンガやモルタルを扱う際はしっかりフィットしたゴム手袋使用をお勧めします。
- ・ 酸の取り扱いには特に注意が必要。必ずゴム手袋をはめ、保護めがねをかけ、作業に適した衣服を着用のこと。

— 警 告 —

- ・ 強風、雨天、降雪時の高所作業は中止してください。風にあおられる、雪や雨で滑るなどの原因で、落下事故の可能性があります。
- ・ 高所作業は関係法規に従ってください。落下事故の可能性があります。

AUSTRALIAN
B R I C K
CLADDING

www.ale.com.au

6 Q & A

「ABCシステム」施工上の質問事項はABCシステム販売元または info@ale.com.au へお問い合わせください。

コーナブリックの小口側にはどうして溝が入っていないのか？

長手と小口両方の溝を同時にシステムレールにはめるのは実際不可能です。無理に押し込めようとするとうコーナブリックを割ったり、システムレールが変形破損します。小口側のシステムレールの端を切り落とし、小口側に溝の入っていないコーナブリックが下のシステムレールに載って支えられるようにするとコーナブリックがまっすぐと容易に取り付けられます。

何故ハーフより短いブリックを使わないのか？

幅を小さくカットしたレンガは肉眼に際立って目立ち、レンガ造りの美観を大きく損ないます。オーストラリアのレンガ積み用語に「4分の3」というのがあります。カットした部分が目立たないのが上手な仕上げとされていますので、ハーフ以外、いくつかのレンガを少しずつカットして割り付けます。目立たず上手に施工できる長さがちょうど「4分の3」位なところからこの用語が使われるようになりました。現在ではカットしたレンガの総称となっています。

コーナブリックをカットしても良いのか？

コーナを絶対にカットしないというようなルールはありませんが、ほとんどの箇所ではコーナをカットせずに割付できるはずですが、コーナをカットする必要が生じるのは壁の幅が極度に狭いとき、コーナと開口部との間が狭い場合です。この場合は各段コーナを少し切り、周りの平物ブリックも一つ二つ少しカットしてカットを目立たせずに仕上げます。

現場でのレンガカットを減らすには？

いくつかの方法があります。(1) 本マニュアル頁 20-21 にあるようにコーナと開口部(開口部がなければ反対側のコーナ)まで2段ずつ所要所割り付けてみて建物全体のベストな割付をまず計画する。コーナブリックには上下に溝が入っていますので、左右反転させてカットが少ないより良い納まりを決めます。(2) 開口部の廻りにはハーフとフルサイズを使用します。ABC工場でハーフをあらかじめ製造して出荷することもできます。(3) さらに4分の3、ショート4分の3のブリックもABC工場で製造して出荷することができます。

縦目地が揃わなかったらどうしたら良いのか？

縦目地が完璧に揃わないこと自体は問題になりません。問題になるのは縦目地が近くにより過ぎている時です。これはレンガを短く切りすぎたときに生じます。異なった割付ができるはずですが、

「ABCシステム」の施工では何故ブリックの糊付けがいらぬのか？

「ABCシステム」のブリックとシステムレールはブリックをレールに容易にはめられると同時に溝がいったんレールのヒレにはまるとブリックは安定して下のレールに支えられ簡単には落ちないように設計されています。細部の寸法、角度がブリックとレールの完全システムとして設計されているからです。従ってブリックがレールにはまらない底の下など局部を除きブリック取り付け中にシリコンなど糊付けで押さえる必要はまったくありません。栃木県塩谷の「いのちと平和の市民博物館—アウシュヴィッツミュージアム」では2階建て建物2棟に目地モルタルや糊付けを一切付けず「ABCシステム」を施工、移転までの2年半余りブリック落下事例無し。その間、頻繁な夕立と数度の地震を経験しています。この「ABCシステム」の特長を生かし、目地付けを始める前にレンガ壁面の色のバランス向上にブリックを入れ替えるなどの調整も容易です。

システムレールは何故ガルバでないのか？

ガルバリウム（オーストラリア Blue Scope 社ではジンカリウムの商標）は一般的にはより優れた耐久性がある反面、使用環境によって極度に弱い場合があります。強度アルカリ環境での使用が顕著な例で、亜鉛メッキが圧倒的強さを示します。モルタルの典型的アルカリ度は12.5を超える pH 領域とされますが、ガルバリウムは pH12 でその防錆効果が消失します。ちなみに、オーストラリア鋼材メーカー BlueScope 社はガルバリウム技術ライセンスの世界の元締めであり、日本の大手鋼材メーカーをはじめ各国の鋼材メーカーにライセンスを与えるとともにガルバの技術指導を行っています。その BlueScope 社が強度アルカリ下で使用される「ABCシステムレール」にはホットディップ溶融亜鉛メッキの使用を推薦しています。またABCシステムレールの亜鉛メッキの厚みは、野ざらして使用されても長い寿命を保つグレードです。

レールの切断は何故研磨用ベビーサンダーや電動切断機を使用しないのか？

鋼材を切断する際、切り口がシャープであれば亜鉛の犠牲作用で亜鉛が切り口を覆うように保護します（被せる）。研磨用ディスクでの切断は金屑が多量に散り、放っておくと鋼材に付着した金屑自体が錆ると、切り口がぎざぎざになり亜鉛の犠牲作用が働くには面が広すぎて防錆保護を失い原板の錆の原因となります。従ってレールの切断には金物バサミを使用するのが最も望ましく、止むを得ず電動切断機を使用する場合は、鋼材用の刃を用い最低 4000rpm の切断機でカットすると比較的シャープな切り口になり金屑の量もさほど多くないとオーストラリア規格協会では指導しています。（出所：SAA HB39-1997）金屑は硬いブラシで必ず取り除き、切り口がギザギザになっている箇所にはコールドガル（亜鉛メッキ）スプレーをかけておくのが賢明です。

www.ale.com.au

レール取り付けに使用する釘は？

ABCシステムレールは亜鉛メッキ鋼板で製造されており、互換性の最もある亜鉛メッキの釘を用いるのが一番です。「ステンレス釘の耐久性が高い」、「コパー釘が錆びない」と一般に受け入れられていますが、性能が良いことは真実であっても、亜鉛メッキ鋼材と用いる場合には無関係、誤った概念となります。最大の耐久性を保ち、腐食を最小に抑えるには異種金属を接触させないという建築、そして化学の原理がここでも通用するわけです。亜鉛メッキの釘にもグレードの差がありますので、良質な亜鉛メッキ仕上げの釘を選択して使用してください。

どんな目地モルタルを使用するのか？

外壁用ミックス済み目地材でのABCシステム施工、目地ガン使用の実績もありますが、一般的砂とセメントの目地モルタルがやはりレンガ仕上げには適しています。ただし、砂の粒子が粗いとモルタルの強度が低くなりまた目地ガンでの使用が困難です。ABCでは目地モルタルに適した粒子のより細かいオーストラリア産の砂をシステムと混載で出荷しています。(色はグレーと白。1パレット1トンが基本梱包単位。)モルタルを扱い易くするには良質のプラスチックサイザー(可塑剤)を少量加えます。

目地のひび割れを防ぐのには？

まず、目地付け前にレンガ壁面を十分に湿らせておくことです。乾燥したレンガはモルタルの水分を急速に吸い込みますので、モルタルが早く固まりすぎその結果目地の収縮、ひび割れを招きます。直射日光のもとでの目地付けを避けできるだけ日陰になる時間に作業します。また、プラスチックサイザー(可塑剤)がひび割れ防止に役立ちますので、ここでも良質のプラスチックサイザー(可塑剤)を選ぶことが大切です。

目地ガンのパーツは手に入るのか？

ガンのフレーム(枠)とハンドル以外のスペアパーツを供給できます。フレーム(枠)とハンドルは使用后洗浄し、潤滑油でハンドルの手入れしておけば長く使用することができます。

レンガ切断機とダイヤモンドカッター(刃)を入手するには？

安全で使いやすい小型のレンガ切断機と施工するレンガの硬さに適したダイヤモンドカッター(刃)を準備しておくことで現場での効率が倍増(刃を変えたことで「レンガ切り」スピードが10倍にもなる例も実際あります。)ABC社ではABCシステム製造での技術と経験を生かし、小型レンガ切断機の設計製造、高品質オーストラリア製ダイヤモンドカッター(刃)販売をしております。お問い合わせはABCシステム販売元または info@ale.com.au へお問い合わせください

ABCシステムで「コーベル」仕上げができるのか？

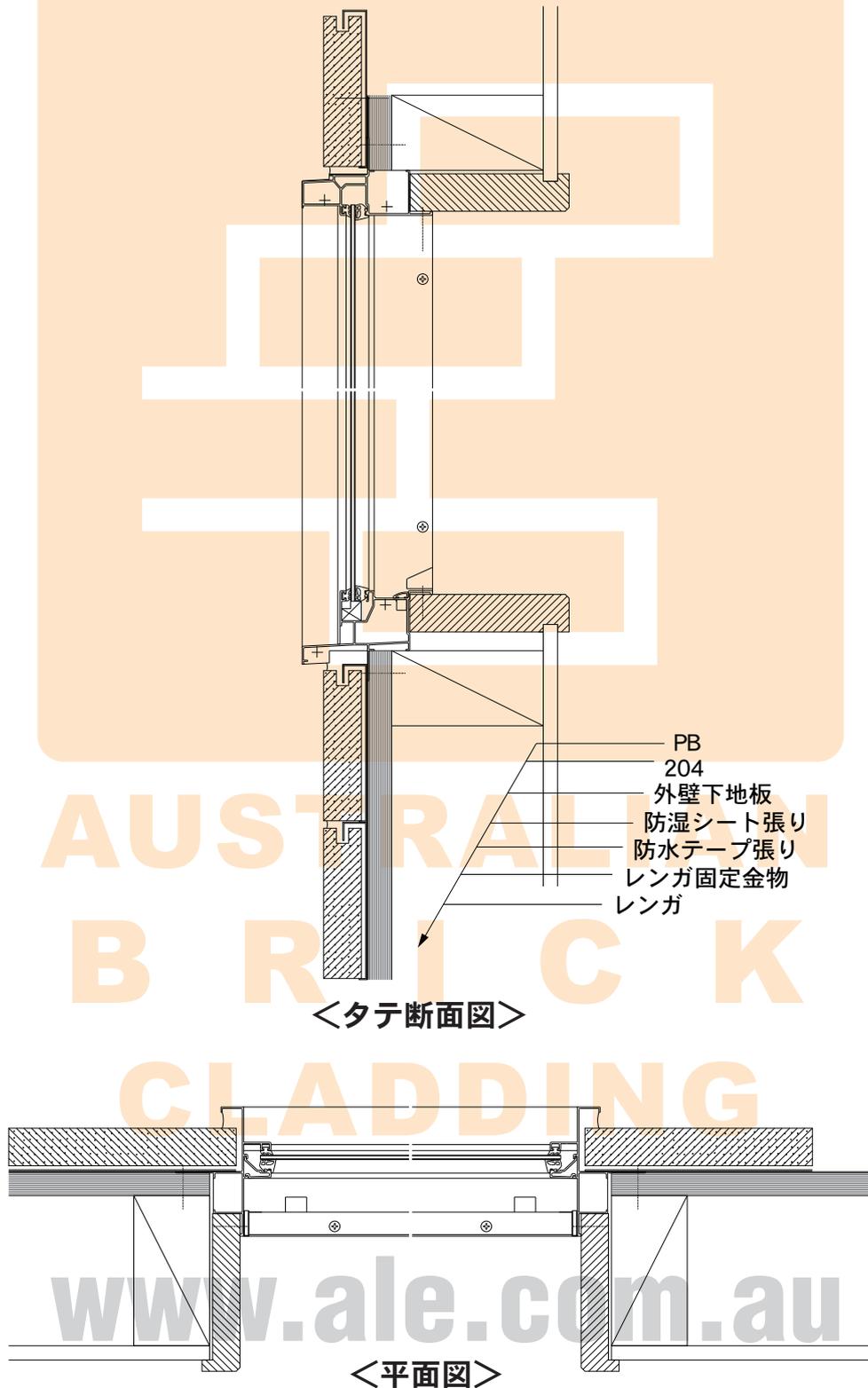
ABCブリックの標準の厚みは25mmですが、25mmより厚みのあるブリックとしてABC工場では裁断加工することもできます。厚いブリックを標準のブリック同様システムレールにはめ、他の面より浮き上がったコーベル仕上げにして豪華に印象付けることができます。

6 用語集 (日英レンガ施工の用語)

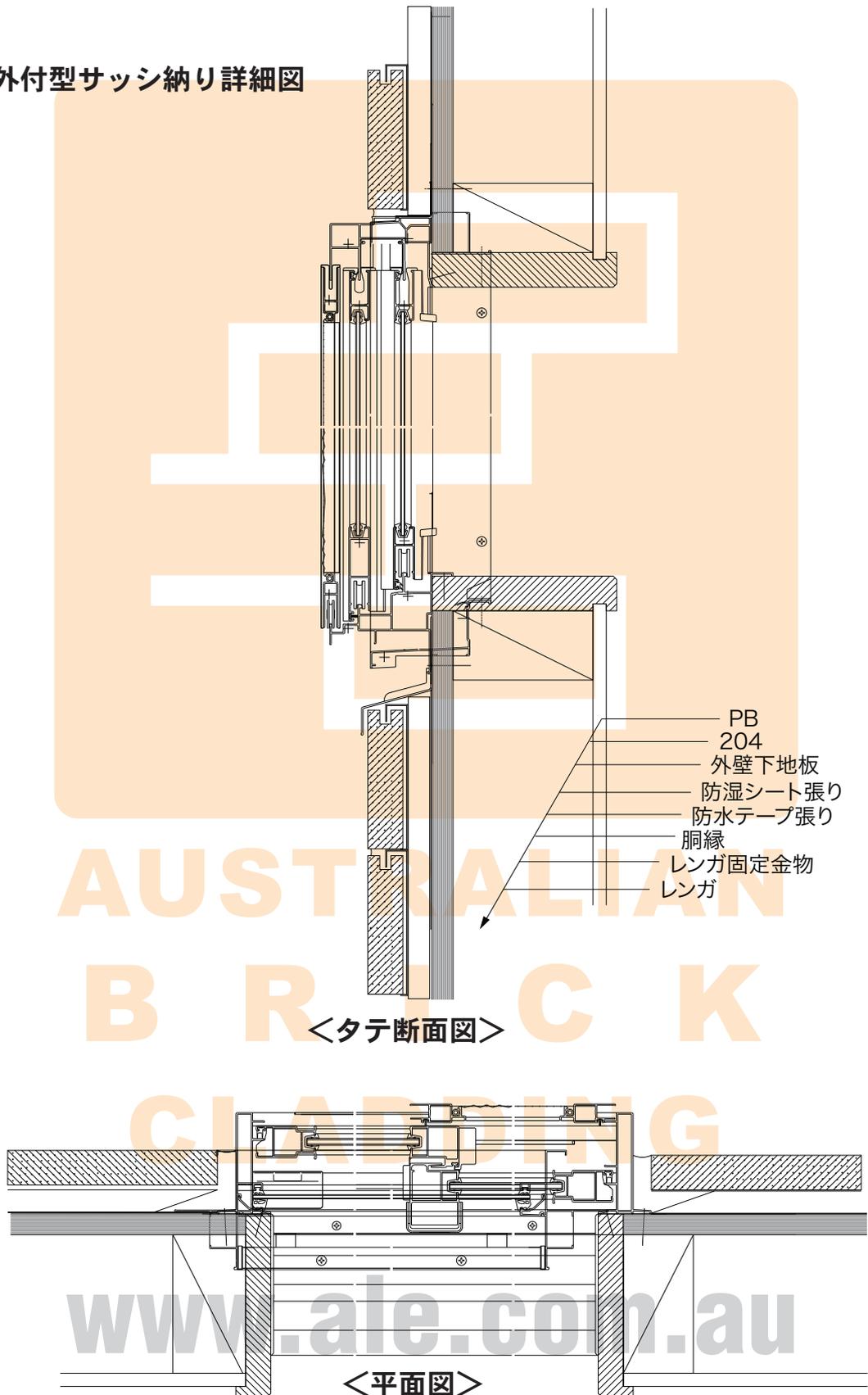
bed joint	横目地 The horizontal mortar joint
corbel	コーベル 他の面より浮き上がっているレンガ壁面仕上げ Brickwork that is proud of the rest of the flat surface.
dumpy level	ダンピーレベル (レーザー光線レベル) A tool used by builders and surveyors to sight a level.
half bond (stretcher bond)	長手積み The most common brick bond, whereby the perp mortar joint in the previous course is below the centre of the brick being laid
datum point	基点 The point selected as that from which other measurements shall be made.
header	小口 The short face, or end, of a brick
perp joint	縦目地 The vertical mortar joint (abbreviation of perpendicular)
reveal	リビール(抱き) 窓、扉など開口部側壁面のレンガ小口部分。 The brick headers down the side of, and at right angles to, a window or door (the header of the brick, normally unseen, is "revealed")
soldier	縦平 A brick laid vertically rather than horizontally (so that it stands up straight like a "soldier")
stretcher	長手 The long face of a brick
swarf	金屑 Fine particles of magnetised steel dust, created during cutting with power tools, which will sit on the steel around the cut and quickly become small specs of rust.
3/4 short 3/4	4分の3、ショート4分の3 長さを目立たない程度カットしたレンガ Bricks shorter than full stretcher length

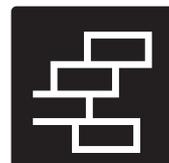
www.ale.com.au

○半外付型サッシ納り詳細図



○外付型サッシ納り詳細図

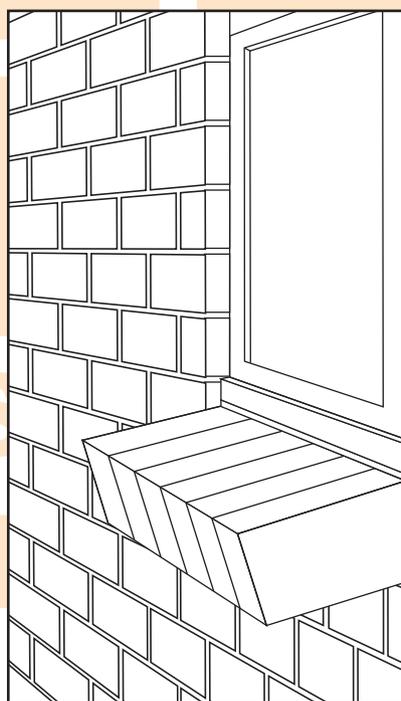




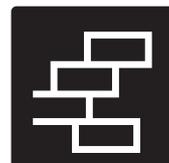
○オーストラリア式窓廻り仕上げ

＜参考図 タイプ1＞

- ・ A B Cシステムのブリックが窓枠につき付け、ブリックの厚みが窓枠より外に出ます。ブリックの溝がみえないようその部分にコーナー用平レンガ（溝を切り残したブリック）を使用します。
- ・ 窓の上は縦平を用い、窓の上の高さからレールを貼り始めると縦平の長さ調整以外、縦方向のレンガカットが少なくなります。
- ・ 窓下はA B C「シル」ブリックで仕上げます。

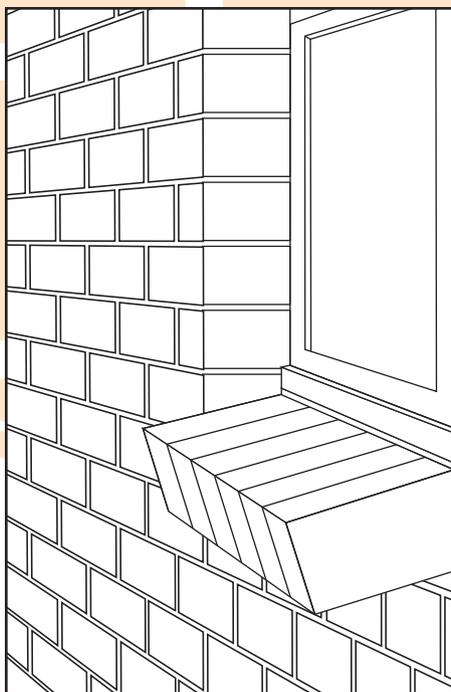


www.ale.com.au



<参考図 タイプ2>

- ・ ABCコーナブリックを側壁面リピール（抱き）に使用し、ABC「シル」ブリックと組み合わせて伝統的レンガ積みの窓廻り仕上げを再現します。



www.ale.com.au